# Google アナリティクス 4

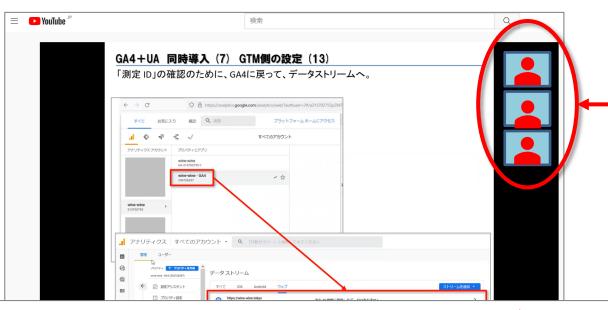
and,a株式会社 2022年06月19日

## セミナー中はZOOMはミュート状態でお願いいたします。

#### ■セミナーの録画について■

このオンラインセミナーは、弊社にて録画して、アーカイブとしてネットで公開させていただきます。

セミナー中にユーザー様がミュートを解除して音を発せられると、ZOOMのパワーポイントの横に、お名前や映像が出てしまうことがあるようです。 申し訳ございませんが、音声OFF、カメラOFFにてご視聴いただきますよう、お願い申し上げます。



<u>セミナー中に、もしお名前、映像が出てしまった場合は、アーカイブ公開前にモザイクでお名前を隠させていただきます。</u>

# セミナーテキストのダウンロード

本セミナーのテキストは登録なしでダウンロードしていただくことができます。 テキストはセミナー後も必要に応じて可能な限り更新してまいります。



## セミナーについてのご質問

ZOOMにはチャット機能がございますが、セミナーの時間が30分のため、 大変申し訳ございませんが、セミナー中にチャットでご質問を頂戴しても、 セミナー中にご回答させていただくことができません。

弊社ではGA4の導入、設定、活用などに関して、質問、相談ができる「GA4専用無料コミュニティ」を開設しております。

こちらで当セミナーの講師がご回答させていただきます。 下記のリンクから、全て無料でご利用いただくことができます。 https://discord.gg/H48gPszEuP



コミュニティは、 当セミナーの主催者 and,a株式会社が運営 しており、どなたでも無 料でご参加いただき、 質問を書き込んで頂く ことができます。

BigQuery サンドボックスに無料でエクスポート

# BigQuery Export の利用を開始する方法は2種類

サービス名	公式サイト	クレジットカードの 事前登録
Google Cloud Platform (GCP)無料トライアル	https://cloud.google.com/g cp/	無料枠を利用するためには、登録時にクレジットカード情報の登録が必要。 無料枠を使い切っても、自動で課金されることは無い。
BigQueryサンドボックス	https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox?hl=ja	登録時にクレジットカード情 報の登録は不要。

今回はこちらをご紹介

公式へルプ: <a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox">https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox</a>

## 解説:サンドボックスについて(1)

#### BigQuery サンドボックスについて

こちらは、参考情報としてご覧ください。

#### 制限事項

BigQuery サンドボックスには次の制限があります。

- すべての BigQuery の割り当てと上限(<u>https://cloud.google.com/bigquery/quotas</u>)が 適用されます。
- BigQuery の無料枠(<a href="https://cloud.google.com/bigquery/pricing#free-tier">https://cloud.google.com/bigquery/pricing#free-tier</a>)と同じ無料使用量の上限(毎月 10 GB のアクティブ ストレージと 1 TB のクエリデータ処理)が設定されます。
- BigQuery BI Engine の最大容量は1GBです。詳細については、BigQuery BI Engine とは(https://cloud.google.com/bigquery/docs/bi-engine-intro)をご覧ください。

公式へルプ: <a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox">https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox</a>

## 解説:サンドボックスについて(2)

#### すべてのデータセットにデフォルトのテーブル有効期限

(<a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/updating-datasets#table-expiration">https://cloud.google.com/bigquery/docs/updating-datasets#table-expiration</a>)が設定されています。また、デフォルトのパーティション有効期限は 60 日間に設定されています。テーブル(<a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/tables-intro">https://cloud.google.com/bigquery/docs/views-intro</a>)、パーティション分割テーブル(<a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/partitioned-tables">https://cloud.google.com/bigquery/docs/partitioned-tables</a>)のパーティションは、60 日後に自動的に有効期限が切れます。

サンドボックスプロジェクトでサポートされていないものは、次のとおりです。

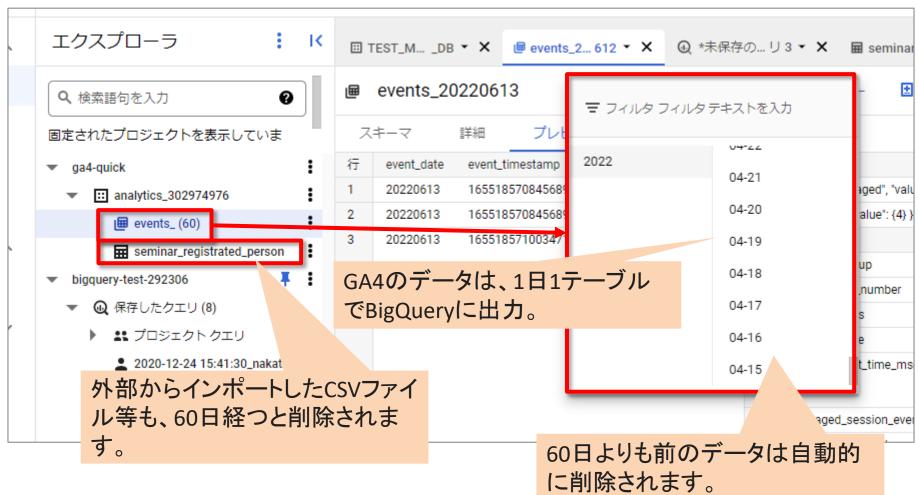
- データのストリーミング (<a href="https://cloud.google.com/bigquery/streaming-data-into-bigquery">https://cloud.google.com/bigquery/streaming-data-into-bigquery</a>)
- データ操作言語(DML)のステートメント

   https://cloud.google.com/bigquery/docs/reference/standard-sql/data-manipulation-language
   language
- BigQuery Data Transfer Service (<a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/transfer-service-overview">https://cloud.google.com/bigquery/docs/transfer-service-overview</a>)

公式へルプ: <a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox">https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox</a>

## 解説:サンドボックスについて(3)

GA4のデータは、1日1テーブルでBigQueryに出力されます。<mark>60日よりも前のデータは自動的に削除されます。</mark>また外部からインポートしたCSVファイル等も、60日経つと削除されます。



公式へルプ: <a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox">https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox</a>

## 解説:サンドボックスについて(4)

サンドボックスの制限をなくすには、プロジェクトをアップグレード(=有料版への移行)し、 リソースの有効期限を削除または更新します。サンドボックスからアップグレードした後も、 無料枠(https://cloud.google.com/free)を使用できますが、料金が発生する場合があり ます。BigQueryの割り当てを管理するには、費用管理

( <a href="https://cloud.google.com/bigguery/docs/custom-quotas">https://cloud.google.com/bigguery/docs/custom-quotas</a>)の設定を検討してください。

## サンドボックスからのアップグレード

については、下記をご参照ください。

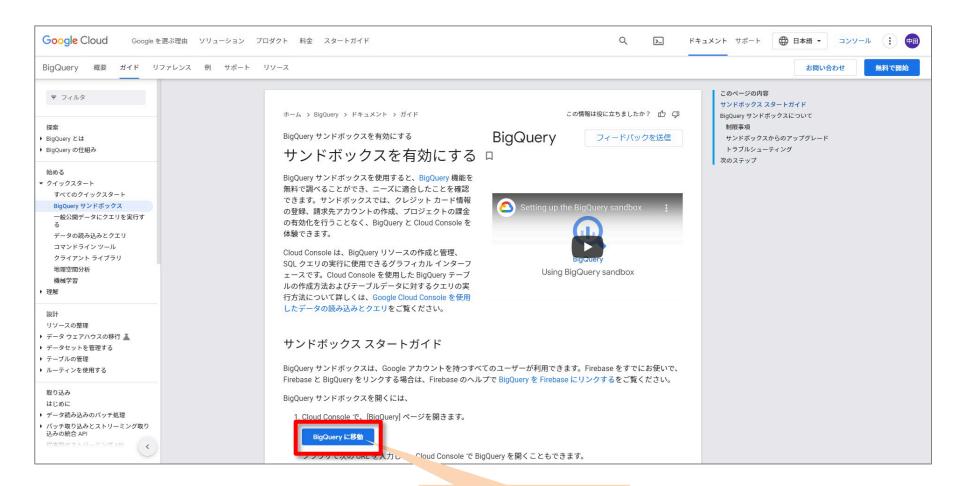
https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox#upgrade\_from\_the\_sandbox

公式へルプ: <a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox">https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox</a>

# BigQueryサンドボックス(1)

公式サイト: <a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox?hl=ja">https://cloud.google.com/bigquery/docs/sandbox?hl=ja</a>

「BigQueryに移動」をクリック。

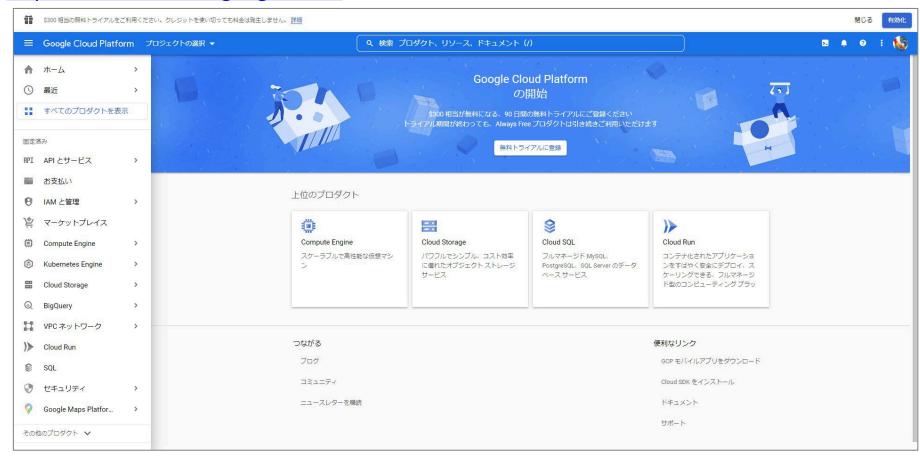


BigQueryに移動

# BigQueryサンドボックス(2)

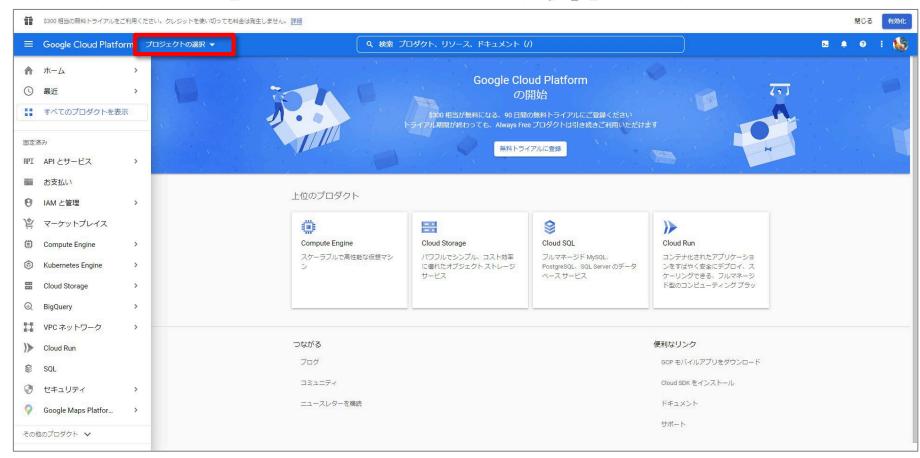
Google Cloud Platform の画面が表示されます。

https://console.cloud.google.com/



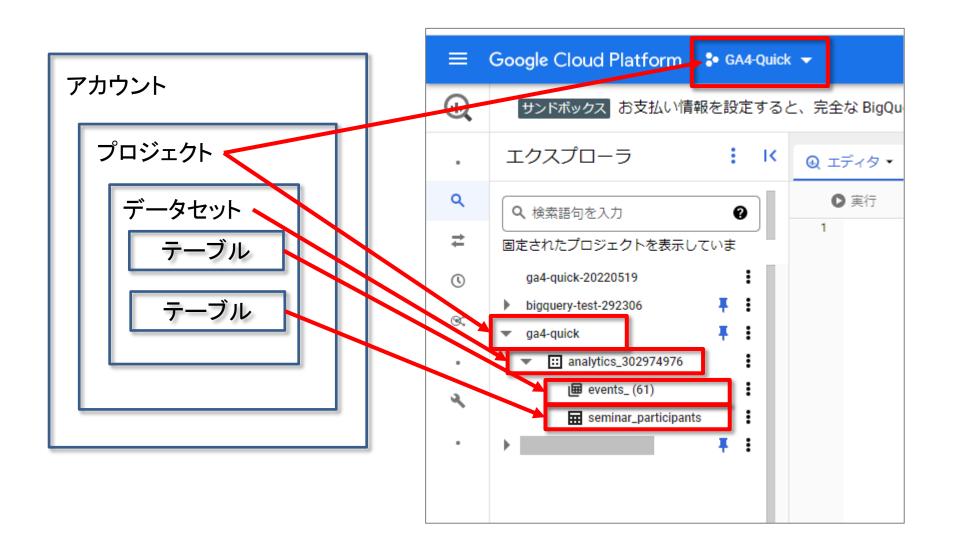
## プロジェクトの作成(1)

Google API Console プロジェクトを作成するか、既存のプロジェクトを選択します。 ここでは、プロジェクトを作成します。「プロジェクトの選択」をクリック。



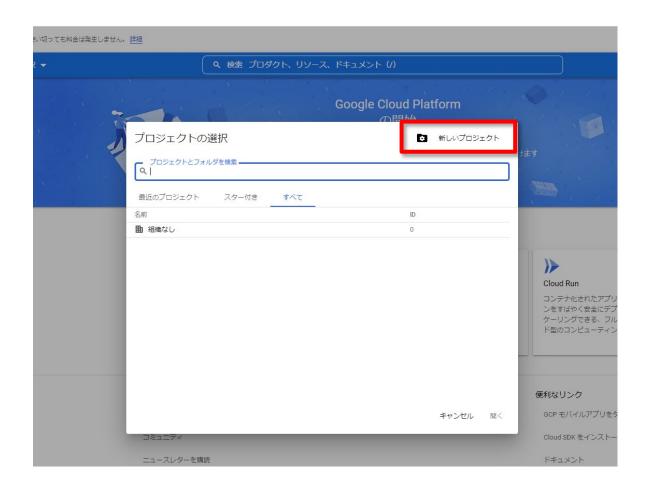
## 解説:プロジェクト

BigQueryのアカウント構造は下記のようになっています。



# プロジェクトの作成(2)

「新しいプロジェクト」をクリック。



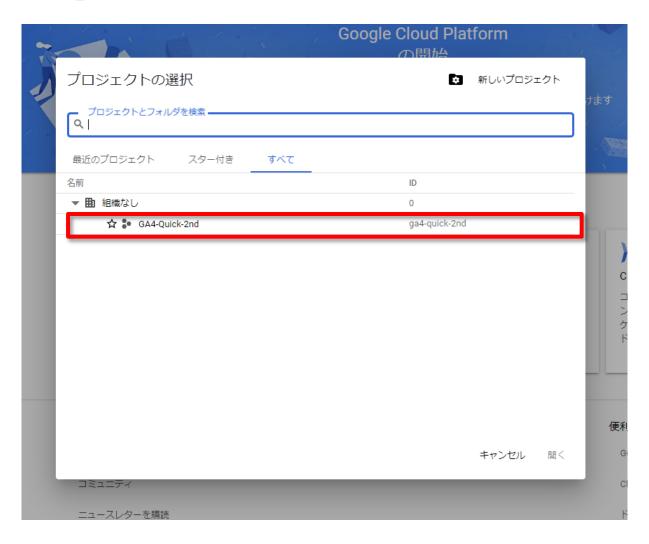
## プロジェクトの作成(3)

「プロジェクト名」(図(1))を入力すると、「プロジェクト ID」(図(2))の候補が自動的に入力されますが、変更できます。「プロジェクト ID」は後で変更できないので、変更したい場合は、ここで変更しておく必要があります。「プロジェクト ID」を変更するか、またはそのままで「作成」をクリックします。



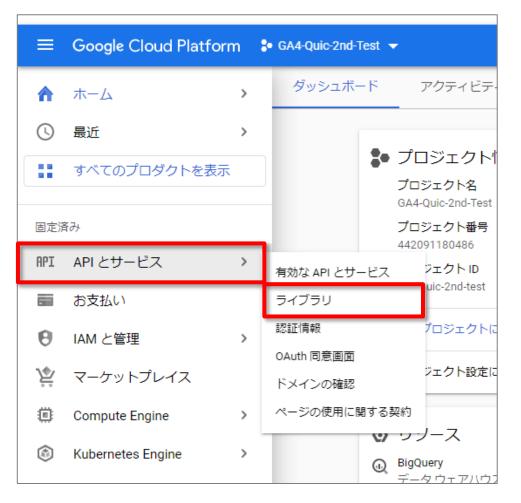
# プロジェクトの作成(4)

作成したプロジェクトをクリックします。



## Google API の確認(1)

左上のナビゲーションメニューを開き、「APIとサービス」>「ライブラリ」の順にクリックします。

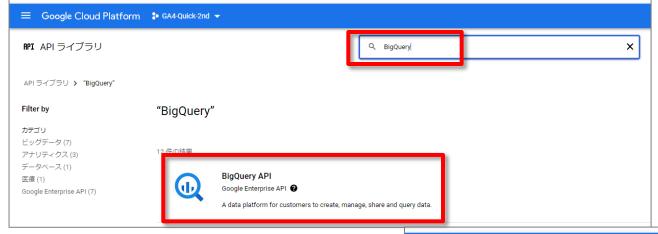


#### 公式ヘルプ:

https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

## Google API の確認(2)

APIライブラリで、BigQueryを検索し、検索結果をクリックします。BigQuery APIが有効になっていれば、そのままで。有効になっていなければ、有効にしてください。





#### 公式ヘルプ:

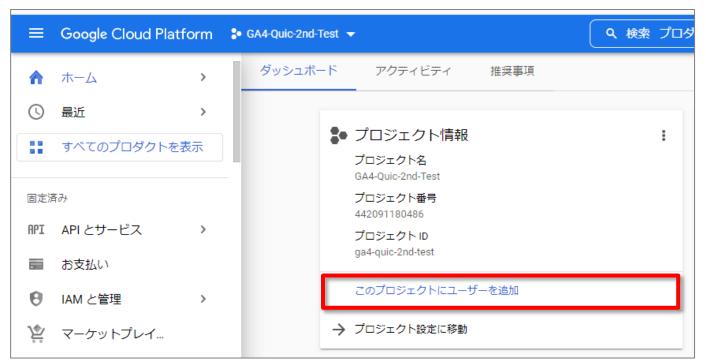
https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

# Cloud プロジェクトにサービス アカウントを追加していることを確認 (1)

Cloud プロジェクトにサービス アカウントを追加していることを確認します。

firebase-measurement@system.gserviceaccount.com がプロジェクトのメンバーとして追加されており、編集者の基本ロールが割り当てられていることを確認し、必要に応じてアカウントを追加します。

「プロジェクト情報」の画面で、「このプロジェクトにユーザーを追加」をクリックします。



#### 公式ヘルプ:

https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

## Cloud プロジェクトにサービス アカウントを追加していることを確認 (2)

<mark>firebase-measurement@system.gserviceaccount.com</mark> に BigQuery データ編集者のロールを 設定して、保存します。

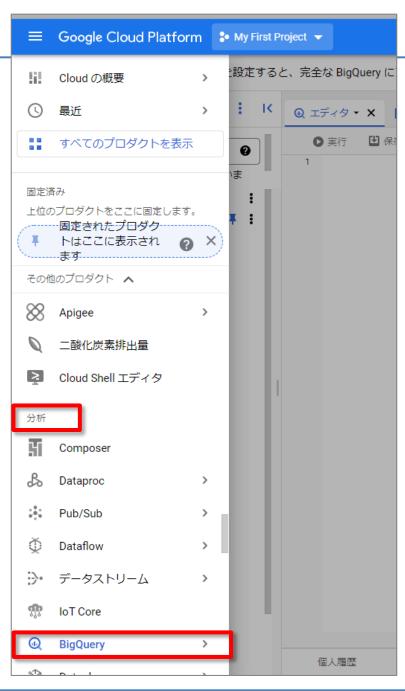


#### 公式ヘルプ:

https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

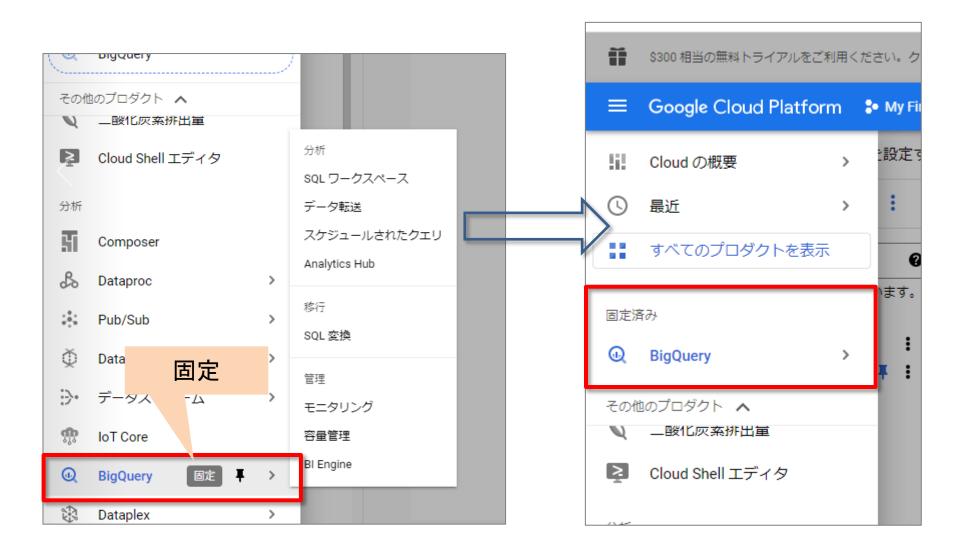
# BigQueryを使用する(1)

BigQuery は、Google Cloud Platform のメニュー内、「分析」から利用できます。



## BigQueryを使用する(2)

「固定」を利用すると、BigQueryをメニュー上部に固定することができます。



BigQuery を GA4 プロパティにリンクする

# BigQuery を GA4 プロパティにリンクする (1)

GA4にログインします。BigQuery プロジェクトの所有者権限と、リンクするGA4データストリームを含むアナリティクス プロパティの編集者の役割を持つメールアドレスを使用します。

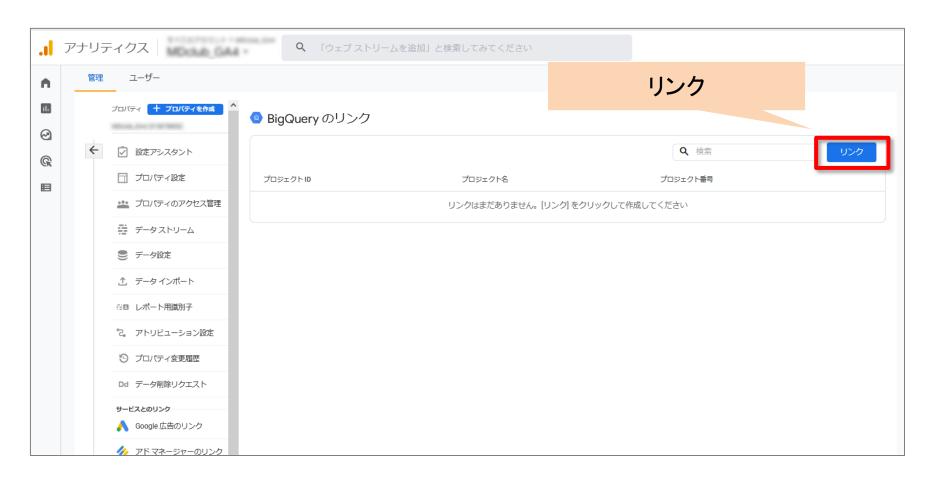


#### 公式ヘルプ:

https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

# BigQuery を GA4 プロパティにリンクする (2)

「リンク」をクリック。



#### 公式ヘルプ:

https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

# BigQuery を GA4 プロパティにリンクする (3)

「BigQuery プロジェクトを選択」をクリックして、読み取り権限以上の権限を持つプロジェクトのリストを表示します。



#### 公式ヘルプ:

https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

## BigQuery を GA4 プロパティにリンクする (4)

リストからプロジェクトを選択し、「確認」をクリックします。



#### 公式ヘルプ:

# BigQuery を GA4 プロパティにリンクする (5)

データのロケーションを選択します。 「**次へ**」をクリックします。

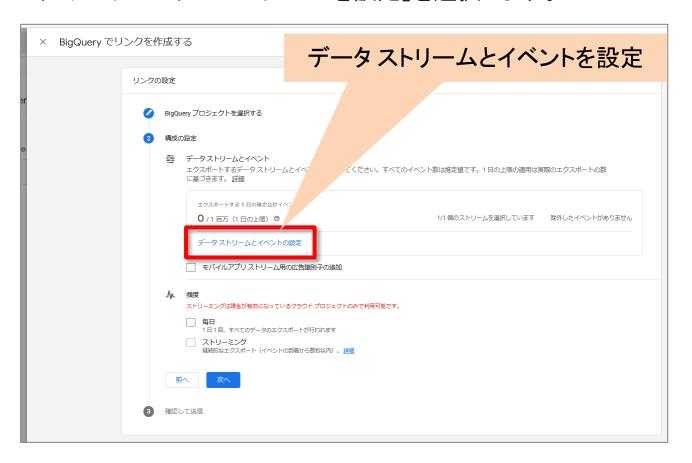


公式ヘルプ: データセットのロケーション

https://cloud.google.com/bigquery/docs/locations?hl=ja

# BigQuery を GA4 プロパティにリンクする (6)

エクスポートに含めるデータストリーム、およびエクスポートから除外する特定のイベント を選択するには、「データストリームとイベントを設定」を選択します。



#### 公式ヘルプ:

# BigQuery を GA4 プロパティにリンクする (7)

イベントを除外するには、「追加」をクリックして既存のイベントのリストから選択するか、「名前でイベントを指定」をクリックして名前で既存のイベントを選択するか、プロパティで収集していないイベント名を定義します。次ページで解説します。

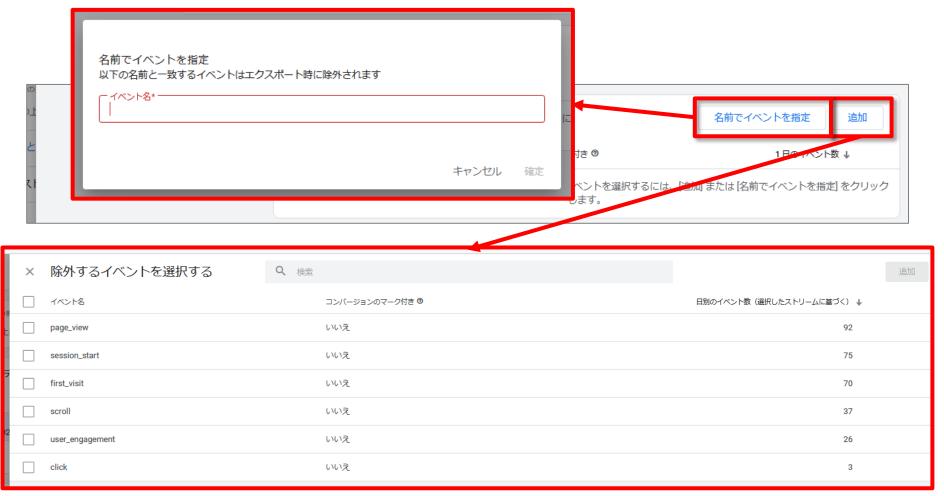


#### 公式ヘルプ:

https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

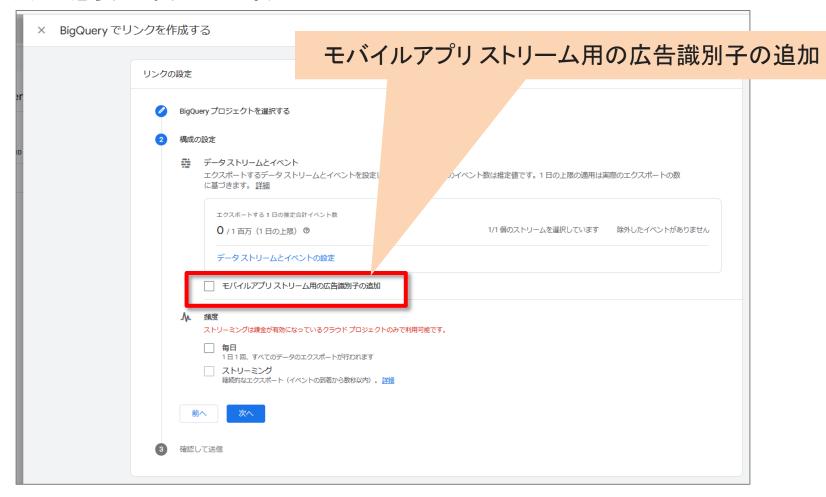
# BigQuery を GA4 プロパティにリンクする (8)

(前ページからの続き)「追加」をクリックして既存のイベントのリストから選択するか、「名前でイベントを指定」をクリックして名前で既存のイベントを選択するか、プロパティで収集していないイベント名を定義します。



# BigQuery を GA4 プロパティにリンクする (9)

広告識別子を含める場合は、「モバイルアプリストリーム用の広告識別子の追加」を選択します。(モバイルアプリストリーム用の広告識別子の追加は、アプリの計測がない場合、チェックの必要はありません。)



# BigQuery を GA4 プロパティにリンクする (10)

データのエクスポートの頻度として「**毎日**」(1日1回)または「**ストリーミング**」(継続的)、あるいは両方を選択します。 「次へ」をクリックします。



#### 解説:ストリーミングとは(1)

BigQuery ストリーミング エクスポートでは、BigQuery Export を介して当日のデータを数分以内に入手できます。

このエクスポートオプションを使用すると、BigQuery に最新のデータを読み込んで、ユーザーとプロパティのトラフィックを分析できます。

ストリーミングエクスポートでは、毎日新しいテーブルが1つ作成されます。

events\_intraday\_YYYYMMDD(イントゥラデイ=その日のうちに、の意): 内部ステージング テーブルです。このテーブルには、その日に発生したセッション アクティビティのレコードが保持されます。ストリーミング エクスポートはベスト エフォート型の処理であり、イベントの遅れやアップロードの失敗などにより、データに漏れが生じる場合もあります。 データは 1 日を通して継続的にエクスポートされます。 セッションが複数のエクスポート周期にまたがっていると、テーブルにはそのセッションのレコードが複数保存されることがあります。 このテーブルは、 events\_YYYYMMDD の作成が完了すると削除されます。

ストリーミングエクスポートを選択した場合、次のテーブルも毎日作成されます。

<mark>events\_YYYYMMDD</mark>: 1 日に 1 回、すべてのイベントがエクスポートされます。 その日の安定したデータセットを分析できるよう、クエリでは、events\_intraday\_YYYYMMDD ではなく events\_YYYYMMDD を使用するようにしてください。

公式へルプ: https://support.google.com/analytics/answer/9358801?hl=ja

and,a 2022年 3<sup>1</sup>

## 解説:ストリーミングとは(2)

データをストリーミング送信するメリット

#### ■絶好のタイミングで広告配信

たとえば、ユーザーが(商品をカートに追加するなど)興味を示したもののコンバージョン に至らなかった場合、その直後に割引を提示すると効果的であることがわかっています。 最適なタイミングで割引をアピールすると、多くのユーザーが再びサイトを訪れ、コンバー ジョンを達成する可能性が高まります。そのためには、最新のデータを利用して該当する ユーザーをすばやく見つけ、ユーザーの関心を引き付ける広告を絶好のタイミングで配 信しなければなりません。

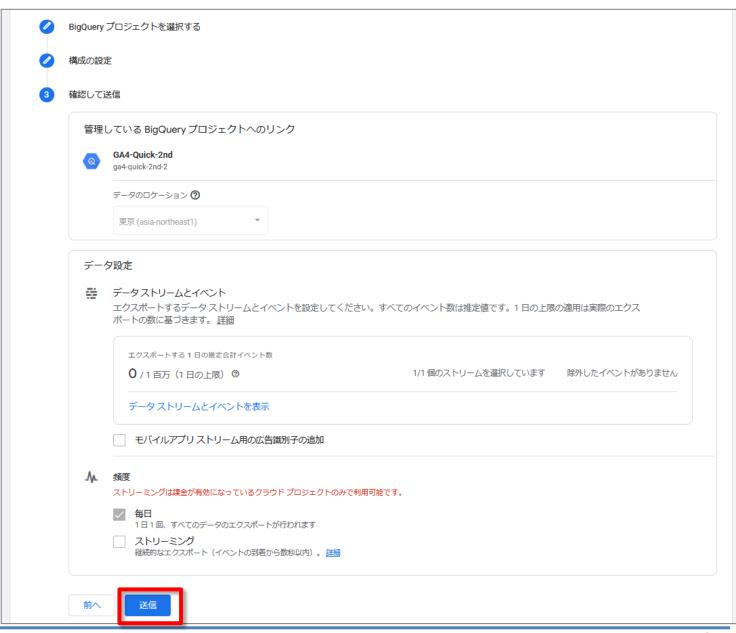
#### ■新たなトレンドの理解

頻繁なデータ更新は、問題のすみやかな特定と解決にも役立ちます。また、文化的トレンドをいち早くキャッチして、情報を発信することもできます。BigQuery は、こうしたデータ運用の重要な部分を担います。CRM システム、コールセンター、実店舗など、現在Google アナリティクスでは利用できないデータを取り込むことで、顧客、問題点、新たなトレンドを深く理解することができます。

公式ブログ: https://analytics-ja.googleblog.com/2017/10/google-bigguery.html

### BigQuery を GA4 プロパティにリンクする (11)

設定を確認して、「送信」をクリックします。



# BigQuery を GA4 プロパティにリンクする (12)

リンクが作成されると、「リンク作成済」と表示されます。



リンク作成済

#### 参考:選択したリージョンが間違っていて、リンクの作成後に変更する必要がある場合

- BigQuery へのリンクを削除します(後述)。
- 2. データを BigQuery の別のデータセットにバックアップ (移動 (<a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/managing-datasets#moving\_datasets">https://cloud.google.com/bigquery/docs/managing-datasets#moving\_datasets</a>) また はコピー(<a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/copying-datasets">https://cloud.google.com/bigquery/docs/copying-datasets</a>))します。
- 3. 元のデータセットを削除(<a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/samples/bigquery-doler-docs/samples/bigquery-
- 4. 削除したデータセットと同じ名前で新しいデータセットを作成し、データのロケーション を選択します。
- 5. バックアップしておいたデータを、新しいデータセットにコピーします。
- 6. 上の手順を繰り返して、BigQuery へのリンクを新たに作成します。

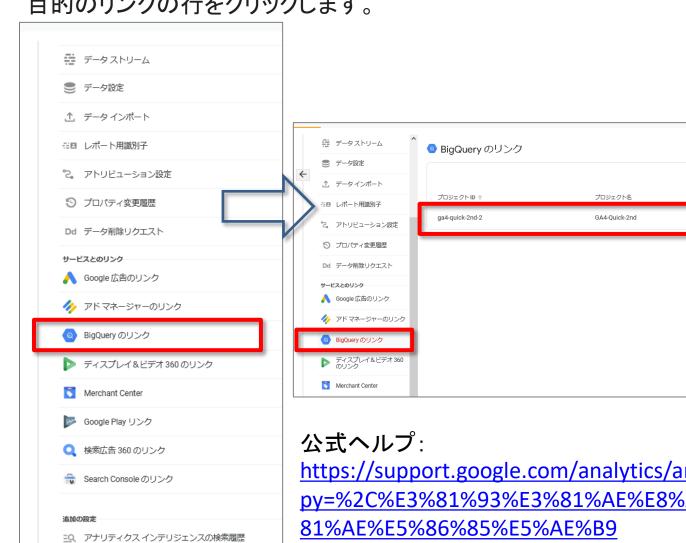
ロケーションを変更すると、データに空白期間が生じる点に注意しましょう。元のリンクを 削除してから新しいリンクを削除するまでの間、データのエクスポートは(頻度が「スト リーミング」でも「毎日」でも)処理されません。

#### 公式ヘルプ:

https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

### BigQuery へのリンクを削除する(1)

管理ページで、目的のアカウントとプロパティが選択されていることを確認します。 「プロパティ」列の「BigQuery とのリンク」をクリックします。 目的のリンクの行をクリックします。



https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zip py=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3% 81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

> 40 and,a 2022年

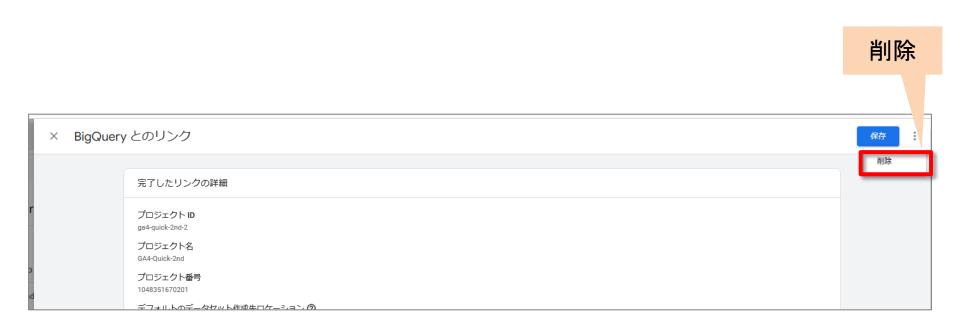
Q 検索

プロジェクト番号

1048351670201

### BigQuery へのリンクを削除する(2)

画面右上のその他 > [削除]の順にクリックします。



#### 公式ヘルプ:

https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

### 解説:BigQuery Export に関する制限

標準プロパティでは、BigQuery Export の 1日の上限は 100万イベント(Google アナリティクス 360(Google アナリティクス 4プロパティ)の場合はヘルプに「数十億件のイベント」と記載されています。https://support.google.com/analytics/answer/11202874)です。プロパティがエクスポートの上限を継続的に超えると、BigQuery の日次エクスポートは一時停止され、それ以前の数日間のエクスポートは再処理されません。

プロパティの編集者と管理者には、自らが管理しているプロパティが1日の上限を超えるたびにメール通知が届きます。この通知には、何も対応しなかった場合にエクスポートが一時停止される時期が記載されます。また、標準プロパティが1日の上限である100万件イベントを大幅に超えると、アナリティクスでは日次エクスポートが直ちに一時停止されることがあります。通知が届いた場合は、データフィルタリング機能(データストリームエクスポートとイベント除外)

( <a href="https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#datafiltering">https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#datafiltering</a> )を利用して、毎日エクスポートするイベント数を減らし、日次エクスポートの作業を継続できるようにしてください。

#### ストリーミング エクスポート

( <a href="https://support.google.com/analytics/answer/9358801#streaming">https://support.google.com/analytics/answer/9358801#streaming</a> ) に制限はありません。

詳しくは、360 プロパティの機能に適用される制限についてのヘルプ (<a href="https://support.google.com/analytics/answer/11202874">https://support.google.com/analytics/answer/11202874</a> )をご覧ください。

# BigQuery の料金

### BigQuery の料金

BigQuery の料金は<mark>ストレージ</mark>と<mark>クエリ処理</mark>に基づいて請求されます。具体的な金額を次ページ以降で紹介します。

価格表(<a href="https://developers.google.com/bigquery/pricing#packagetable">https://developers.google.com/bigquery/pricing#packagetable</a>)をご覧になり、インタラクティブ クエリとバッチクエリの違い

(<a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/running-queries?hl=jp#batchqueries">https://cloud.google.com/bigquery/docs/running-queries?hl=jp#batchqueries</a>)を確認してください。

エクスポートを処理するには、クラウドに有効なお支払い方法の登録 (<a href="https://support.google.com/cloud/answer/4356189">https://support.google.com/cloud/answer/4356189</a>)が必要です。無効なお支払い方法が原因でエクスポートが中断された場合、その期間のデータをエクスポートし直すことができませんのでご注意ください。

アナリティクスのデータは 「BigQuery サンドボックス」(前出)に無料でエクスポートすることもできますが、「サンドボックスの制限」(前出)が適用されることにご注意ください。

#### 公式ヘルプ:

https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

### 料金と課金 東京(asia-northeast)(1) ストレージの料金

カテゴリ	課金対象	料金	詳細
ストレージ	アクティブストレージ (注1)	\$0.023 / GB	毎月10 GBまで無料
	長期保存(注2)	\$0.016 / GB	毎月10 GBまで無料

(注1)「アクティブ ストレージ」には、<mark>過去 90 日間で変更されたテーブル</mark>またはテーブル パーティションが含まれます。

(注2)「長期保存」には、90 日間連続して変更されていないテーブルまたはテーブル パーティションが含まれます。そのテーブルのストレージの料金は自動的に約 50% 値引きされます。アクティブ ストレージと長期保存のパフォーマンス、耐久性、可用性に違いはありません。

最新情報を公式ヘルプでご確認ください:

https://cloud.google.com/bigquery/pricing?hl=ja#storage

### 料金と課金 東京(asia-northeast)(2) データ取り込みの料金

カテゴリ	課金対象	料金	詳細
	BigQuery Storage API	\$0.03 / GB	毎月最初の 2 TB まで無料
データ取り込み	ストリーミング挿入	\$0.012 / 200MB	挿入に成功した行が対象課金と なります。 最小サイズ1 KBで各行が計算されます。

BigQuery へのデータの読み込みの概要 公式ヘルプ: <a href="https://cloud.google.com/bigquery/docs/loading-data?hl=ja">https://cloud.google.com/bigquery/docs/loading-data?hl=ja</a>

最新情報を公式ヘルプでご確認ください: <a href="http://cloud.google.com/bigquery/pricing?hl=ja">http://cloud.google.com/bigquery/pricing?hl=ja</a>

# 料金と課金 東京(asia-northeast)(3) 分析の料金

カテゴリ	課金対象	料金	詳細
	クエリ(オンデマンド 分析)	\$6.00 / TB	毎月1TBまで無料
データ分析	クエリ(月定額)	\$2,400 / 100 slots	最小スロット数は 100 で、100 ス
	クエリ(年定額)	\$2,040 / 100 slots	ロット単位で購入可能



#### 最新情報を公式ヘルプでご確認ください:

http://cloud.google.com/bigquery/pricing?hl=ja

### データのエクスポートが開始されるタイミング

リンク完了後 24 時間以内に、データが BigQuery プロジェクトにエクスポートされるようになります。

毎日のエクスポートを有効にすると、前日のデータが格納された1ファイルが<mark>毎日(通常は、レポート作成用に設定したタイムゾーンの午後の早い時間帯に)</mark>エクスポートされます。

#### 公式ヘルプ:

https://support.google.com/analytics/answer/9823238?hl=ja#zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E5%86%85%E5%AE%B9

BigQuery にエクスポートされるデータ

# [GA4] BigQuery Export スキーマ(1)

すべてのアカウント > and,a株式会社(App+W..

ga4-quick.and-aaa.com - G... •

プロパティ設定

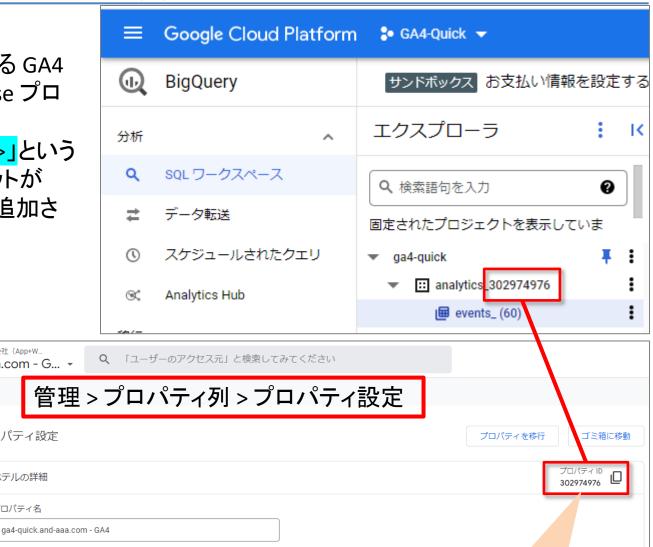
ホテルの詳細

プロパティ名

#### データセット

BigQuery にリンクしている GA4 プロパティおよび Firebase プロ ジェクトごとに、

「analytics <property id>」という 名前の1つのデータセットが BigQuery プロジェクトに追加さ れます。



#### 公式ヘルプ

ılı.

 $\odot$ 

囯

アナリティクス

ユーザー

プロパティ 十 プロパティを作成

ga4-quick.and-aaa.com - GA4 (302974...

♪
プロパティのアクセス管理

② 設定アシスタント

□ プロパティ設定

https://support.google.com/analytics/answer/7029846?hl=ja

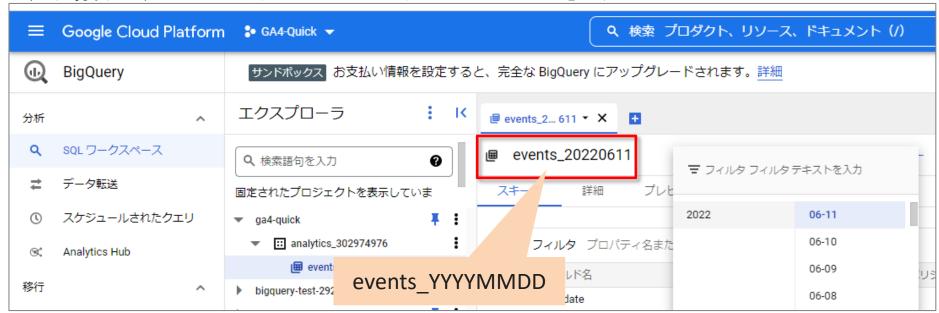
プロパティID

### [GA4] BigQuery Export スキーマ(2)

#### テーブル

毎日のエクスポートオプションまたはストリーミング エクスポートオプションが有効になっているかどうかにかかわらず、各データセット内に events\_YYYYMMDD という名前のテーブルが毎日作成されます。

ストリーミング エクスポート オプションを有効にすると、events\_intraday\_YYYYMMDD という名前のテーブルも作成されます。(前出)イベントは1日中記録されるため、このテーブルには継続的にデータが入力されます。このテーブルは、events\_YYYYMMDD の作成が完了すると1日の終わりに削除されます。(BigQuery サンドボックスの場合、1日の途中にはイベントはインポートされず、追加で適用される上限設定があります。当日にインポートする場合は、サンドボックスからアップグレードしてください)



# 解説 主なデータ型(1)

データ型	説明
STRING	文字列型
INTEGER(インテジャー)	整数型
BOOLEAN(ブーリアン)	TRUE または FALSE (フォールス)
FLOAT	浮動小数点型 小数部分を持つ数値

### 公式ヘルプ

https://support.google.com/analytics/answer/7029846?hl=ja

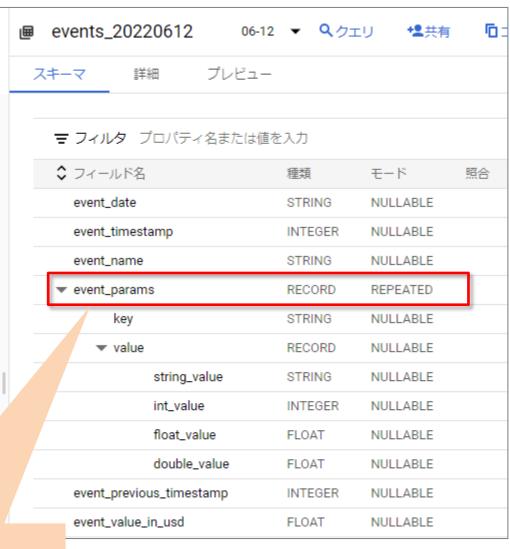
### 解説 主なデータ型(2) RECORD

列の種類として、event\_paramsのように「RECORD」という種別があります。

種類:「RECORD」、モード:
「REPEATED」の列は<mark>構造体と呼ばれる特殊なデータ型</mark>で、内部に配列(複数のデータを順番に並べた構造)などさまざまなフィールドを内包しています。

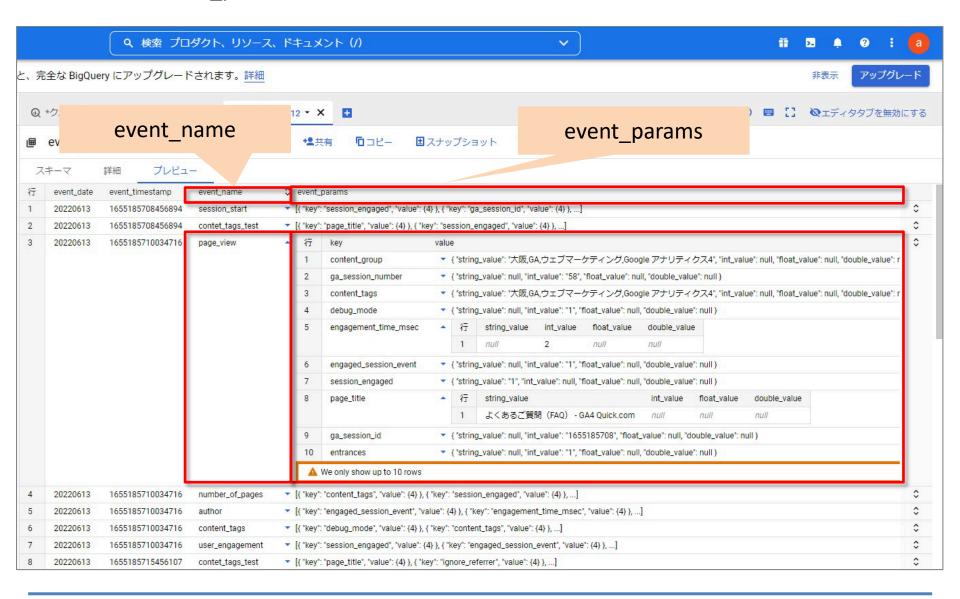
この構造体を組み合わせると、<mark>複数のテーブルを一つに結合しているかのように使うことができます。</mark>その結果、個別のテーブルをJOIN(2つ以上のテーブルを繋ぐこと)してクエリーするよりも高速に複雑なデータを分析できます。

種類:「RECORD」、モード:
「REPEATED」の列は構造体と呼ばれる。



### [event\_params]を例にRECORD型を解説(1)

ここからは、[event\_params]を例にRECORD型を解説します。



# [event\_params]を例にRECORD型を解説(2)

1つのレコードが1つのイベントを格納しており(下記の例では、page\_view)、その中に埋め込まれたテーブルが、<mark>そのイベント(=page\_view)のパラメータを格納</mark>しています。



and,a 2022年 5.

# [event\_params]を例にRECORD型を解説(3)

[event\_params]は[key]と[value]に別れています。[value]は更に4つに分かれています。

- [string\_value] = 文字列を格納する。
- [int\_value]=整数を格納する。
- [float\_value]=浮動小数点型のデータを格納する。
- [double\_value]=有効桁数の多い小数を格納する。

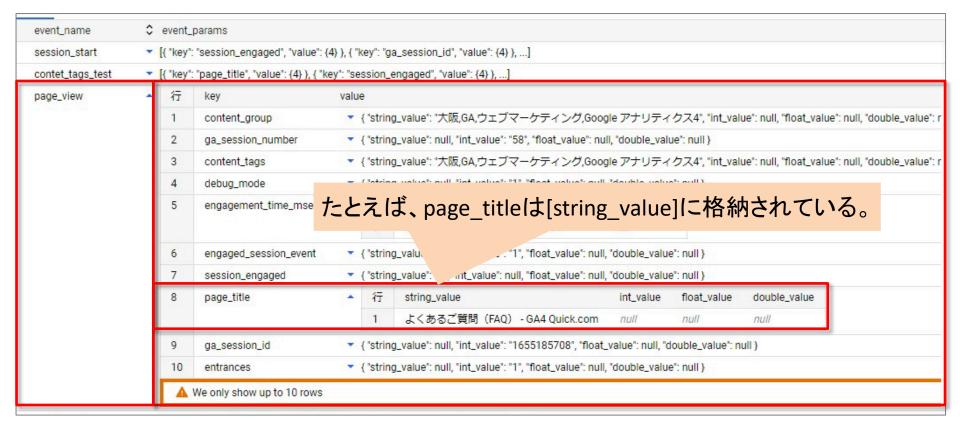
event\_params



# [event\_params]を例にRECORD型を解説(4)

たとえば、page\_titleは[string\_value]に格納されています。文字列は[string\_value]に入れることが決まっているからです。

- [string\_value]=文字列を格納する。
- [int\_value]=整数を格納する。
- [float\_value]=浮動小数点型のデータを格納する。
- [double\_value]=有効桁数の多い小数を格納する。



# BigQuery にエクスポートされるデータ スキーマ

### スキーマとは?

スキーマとは、データベースの データの構造、 性質、 などを定義したものです。

次ページ以降で、BigQueryにエクスポートされるGA4のデータのスキーマを確認します。

公式ヘルプ

https://support.google.com/analytics/answer/7029846?hl=ja

# [GA4] BigQuery Export スキーマ アプリ

フィールド名	データ型	説明
アプリ		
app_info	RECORD	アプリについての情報を格納するレコード。
app_info.id	STRING	アプリのパッケージ名またはバンドル ID。
app_info.firebase_app_id	STRING	アプリに関連付けられている Firebase アプリ ID。
app_info.install_source	STRING	アプリをインストールしたストア。
app_info.version	STRING	アプリの versionName(Android の場合)または short bundle version。

#### 公式ヘルプ

https://support.google.com/analytics/answer/7029846?hl=ja

# [GA4] BigQuery Export スキーマ デバイス(1)

フィールド名	データ型	説明
デバイス		
device	RECORD	デバイスの情報を格納するレコード。
device.category	STRING	デバイスのカテゴリ(モバイル、タブレット、
		PC)。
device.mobile_brand_name	STRING	デバイスのブランド名。
device.mobile_model_name	STRING	デバイスのモデル名。
device.mobile_marketing_n	STRING	デバイスのマーケティング名。
ame		
device.mobile_os_hardware	STRING	オペレーティング システムから直接取得
_model		したデバイスのモデル情報。
device.operating_system	STRING	デバイスのオペレーティング システム。
device.operating_system_ve	STRING	os のバージョン。
rsion		

# [GA4] BigQuery Export スキーマ デバイス(2)

フィールド名	データ型	説明
device.vendor_id	STRING	IDFV(IDFA を収集していない場合にのみ 使用)。
device.advertising_id	STRING	広告 ID または IDFA。
device.language	STRING	OSの言語。
device.time_zone_offset_se	INTEGER	GMT との時差(秒単位)。
conds		
device.is_limited_ad_trackin	BOOLEAN	デバイスの広告トラッキング制限の設定。
g		iOS14 以降では、IDFA がゼロ以外の場合、
		false が返されます。
device.web_info.browser	STRING	ユーザーがコンテンツを閲覧したブラウザ
device.web_info.browser_ve	STRING	ユーザーがコンテンツを閲覧したブラウザ
rsion		のバージョン。
device.web_info.hostname	STRING	ログに記録されたイベントに関連付けら
		れたホスト名。

# [GA4] BigQuery Export スキーマ ストリームとプラットフォーム

フィールド名	データ型	説明
ストリームとプラットフォーム	•	
stream_id	STRING	ストリームの数値 ID。
platform	STRING	アプリケーションが構築されているプラッ トフォーム。

# [GA4] BigQuery Export スキーマ ユーザー(1)

フィールド名	データ型	説明			
ユーザー	ューザー				
user_first_touch_timestam p	INTEGER	ユーザーが初めてアプリを起動したか、 サイトに訪れた時刻(マイクロ秒単位)。			
user_id	STRING	setUserId API によって設定されるユーザー ID。			
user_pseudo_id	STRING	ユーザーの仮の ID(アプリインスタンス ID など)。			
user_properties	RECORD	setUserProperty API によって設定される、 ユーザープロパティの繰り返しレコード。			
user_properties.key	STRING	ユーザー プロパティの名前。			
user_properties.value	RECORD	ユーザー プロパティの値を格納するレ コード。			
user_properties.value.string _value	STRING	ユーザー プロパティの文字列値。			
user_properties.value.int_v alue	INTEGER	ユーザー プロパティの整数値。			

# [GA4] BigQuery Export スキーマ ユーザー(2)

フィールド名	データ型	説明
user_properties.value.doub le_value	FLOAT	ユーザープロパティの倍精度値。
user_properties.value.float _value	FLOAT	このフィールドは現在使用されていません。
user_properties.value.set_ti mestamp_micros	INTEGER	ユーザープロパティが最後に設定された 時刻(ミリ秒単位)。
user_ltv	RECORD	ユーザーのライフタイム バリューに関す る情報を格納するレコード。このフィール ドは当日表では使用されません。
user_ltv.revenue	FLOAT	ユーザーのライフタイム バリュー(収益)。 このフィールドは当日表では使用されま せん。
user_ltv.currency	STRING	ユーザーのライフタイム バリュー(通貨)。 このフィールドは当日表では使用されま せん。

# [GA4] BigQuery Export スキーマ キャンペーン(1)

フィールド名	データ型	説明
キャンペーン		注: traffic_source のアトリビューションは、 クロスチャネルのラストクリック
		(https://support.google.com/firebase/ans wer/6317518#conversion-events- tab&zippy=%2C%E3%81%93%E3%81%AE
		<u>%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%81%AE%E</u> <u>5%86%85%E5%AE%B9</u> )に基づいていま す。traffic_source の値は、ユーザーがイ
		ッ。tranic_source の値は、ユーザーがパーンストール後に次のキャンペーンを操作しても変更されません。
traffic_source	RECORD	ユーザーを最初に獲得したトラフィック ソースの名前。このフィールドは当日表で は使用されません。

# [GA4] BigQuery Export スキーマ キャンペーン(2)

フィールド名	データ型	説明
traffic_source.name	STRING	ユーザーを最初に獲得したマーケティン グ キャンペーンの名前。このフィールドは 当日表では使用されません。
traffic_source.medium	STRING	ユーザーを最初に獲得したメディアの名前(有料検索、オーガニック検索、メールなど)。このフィールドは当日表では使用されません。
traffic_source.source	STRING	ユーザーを最初に獲得したネットワーク の名前。このフィールドは当日表では使 用されません。

# [GA4] BigQuery Export スキーマ 地域

フィールド名	データ型	説明
地域		
geo	RECORD	ユーザーの位置情報を格納するレコード。
geo.continent	STRING	イベントが報告された大陸(IP アドレス ベース)。
geo.sub_continent	STRING	イベントが報告された亜大陸(IP アドレス ベース)。
geo.country	STRING	イベントが報告された国(IP アドレスベース)。
geo.region	STRING	イベントが報告された地域(IP アドレス ベース)。
geo.metro	STRING	イベントが報告された大都市圏(IP アド レスベース)。
geo.city	STRING	イベントが報告された都市(IP アドレス ベース)。

# [GA4] BigQuery Export スキーマ イベント(1)

フィールド名	データ型	説明
イベント		
event_date	STRING	イベントが記録された日付(アプリの登録タイムゾーンにおける日付を YYYYMMDD 形式で示したもの)。
event_timestamp	INTEGER	該当クライアントでイベントが記録された 時刻(ミリ秒単位、UTC)。
event_previous_timestamp	INTEGER	該当クライアントで前回イベントが記録された時刻(ミリ秒単位、UTC)。
event_name	STRING	イベントの名前。
event_params	RECORD	このイベントに関連付けられたパラメー タを格納する繰り返しレコード。
event_params.key	STRING	イベント パラメータのキー。
event_params.value	RECORD	イベント パラメータの値を格納するレ コード。

# [GA4] BigQuery Export スキーマ イベント(2)

フィールド名	データ型	説明
イベント		
event_params.value.string _value	STRING	イベントパラメータの文字列値。
event_params.value.int_value	INTEGER	イベントパラメータの整数値。
event_params.value.doubl e_value	FLOAT	イベントパラメータの倍精度値。
event_params.value.float_ value	FLOAT	イベント パラメータの浮動小数点値。こ のフィールドは現在使用されていません。
event_value_in_usd	FLOAT	イベントの「値」パラメータの通貨換算値 (米ドル単位)。
event_bundle_sequence_i d	INTEGER	これらのイベントをアップロードしたバンドルのシーケンシャル ID。
event_server_timestamp_ offset	INTEGER	データの収集時とアップロード時のタイ ムスタンプの間隔(マイクロ秒単位)。

# [GA4] BigQuery Export スキーマ e コマース(1)

フィールド名	データ型	説明
e コマース		
ecommerce	RECORD	e コマースに関する情報を格納するレ コード。
ecommerce.total_item_qu antity	INTEGER	このイベントにおけるアイテムの合計数。 items.quantityの合計です。
ecommerce.purchase_reve nue_in_usd	FLOAT	このイベントでの購入による収益。米ドル(標準単位)で表記されます。購入イベントに対してのみ入力されます。
ecommerce.purchase_reve nue	FLOAT	このイベントでの購入による収益。現地 通貨(標準単位)で表記されます。購入 イベントに対してのみ入力されます。
ecommerce.refund_value_i n_usd	FLOAT	このイベントにおける払い戻しの金額。 米ドル(標準単位)で表記されます。払い 戻しイベントに対してのみ入力されます。
ecommerce.refund_value	FLOAT	このイベントにおける払い戻しの金額。 現地通貨(標準単位)で表記されます。 払い戻しイベントに対してのみ入力され ます。

# [GA4] BigQuery Export スキーマ e コマース(2)

フィールド名	データ型	説明
e コマース		
ecommerce.shipping_value _in_usd	FLOAT	このイベントにおける送料。米ドル(標準 単位)で表記されます。
ecommerce.shipping_value	FLOAT	このイベントにおける送料。現地通貨で表記されます。
ecommerce.tax_value_in_ usd	FLOAT	このイベントにおける税額。米ドル(標準単位)で表記されます。
ecommerce.tax_value	FLOAT	このイベントにおける税額。現地通貨 (標準単位)で表記されます。
ecommerce.transaction_id	STRING	e コマース トランザクションのトランザク ション ID。
ecommerce.unique_items	INTEGER	このイベントにおける固有のアイテム数。 item_id、item_name、item_brandに基 づきます。

### [GA4] BigQuery Export スキーマ 商品アイテム(1)

フィールド名	データ型	説明
商品アイテム		
items	RECORD	このイベントに含まれる商品アイテムの 繰り返しレコード。
items.item_id	STRING	商品アイテムの ID。
items.item_name	STRING	商品アイテムの名前。
items.item_brand	STRING	商品アイテムのブランド。
items.item_variant	STRING	商品アイテムのバリエーション。

### [GA4] BigQuery Export スキーマ 商品アイテム(2)

フィールド名	データ型	説明
商品アイテム		
items.item_category	STRING	商品アイテムのカテゴリ。
items.item_category2	STRING	商品アイテムのサブカテゴリ。
items.item_category3	STRING	商品アイテムのサブカテゴリ。
items.item_category4	STRING	商品アイテムのサブカテゴリ。
items.item_category5	STRING	商品アイテムのサブカテゴリ。

and,a 2022年 7-

### [GA4] BigQuery Export スキーマ 商品アイテム(3)

フィールド名	データ型	説明
商品アイテム		
items.price_in_usd	FLOAT	商品アイテムの価格。米ドル(標準単 位)で表記されます。
items.price	FLOAT	商品アイテムの現地通貨での価格。
items.quantity	INTEGER	商品アイテムの数量。
items.item_revenue_in_us d	FLOAT	この商品アイテムの収益。price_in_usd x 数量によって計算されます。購入イベントに対してのみ入力され、米ドル(標準単位)で表記されます。
items.item_revenue	FLOAT	この商品アイテムの収益。価格 x 数量によって計算されます。購入イベントに対してのみ入力され、現地通貨(標準単位)で表記されます。

and,a 2022年 7.

### [GA4] BigQuery Export スキーマ 商品アイテム(4)

フィールド名	データ型	説明
商品アイテム		
tems.item_refund_in_usd	FLOAT	この商品アイテムの払い戻し額。 price_in_usd x 数量によって計算されます。払い戻しイベントに対してのみ入力 され、米ドル(標準単位)で表記されます。
items.item_refund	FLOAT	この商品アイテムの払い戻し額。価格 x 数量によって計算されます。払い戻しイ ベントに対してのみ入力され、現地通貨 (標準単位)で表記されます。
items.coupon	STRING	この商品アイテムに適用されるクーポンコード。
items.affiliation	STRING	仕入れ先業者や実店舗を指定する商品 アフィリエーション。
items.location_id	STRING	商品アイテムに関連付けられている場 所。

### [GA4] BigQuery Export スキーマ 商品アイテム(5)

フィールド名	データ型	説明
商品アイテム		
items.item_list_id	STRING	ユーザーに商品アイテムが表示されたリストの ID。
items.item_list_name	STRING	ユーザーに商品アイテムが表示されたリ ストの名前。
Items.item_list_index	STRING	リスト内の商品アイテムの位置
items.promotion_id	STRING	商品プロモーションの ID。
items.promotion_name	STRING	商品プロモーションの名前。
items.creative_name	STRING	プロモーション スポットで使用されたクリ エイティブの名前。
items.creative_slot	STRING	クリエイティブ スロットの名前。

### [GA4] BigQuery Export スキーマ ウェブ プライバシー情報

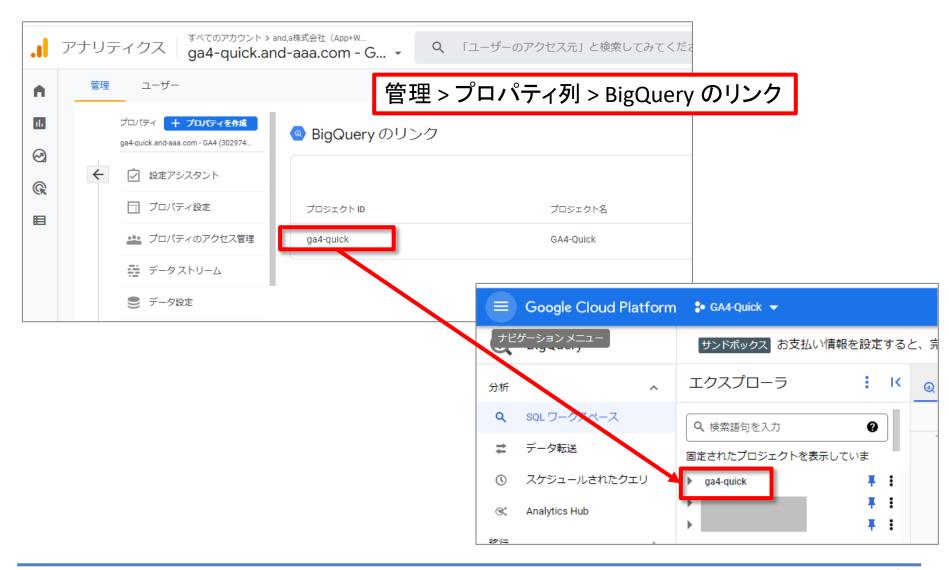
フィールド名	データ型	説明
ウェブ		
web_info	RECORD	ウェブデータの情報のレコード。
プライバシー情報		以下のフィールドは、同意モードを使用 した場合のユーザーの同意ステータス (https://support.google.com/analytics/a nswer/9976101)に基づいています。
privacy_info.ads_storage	STRING	ユーザーに対して広告ターゲティングが 有効になっているかどうか。 有効な値: Yes、No、Unset
privacy_info.analytics_stor age	STRING	ユーザーに対してアナリティクスのデー タ保存が有効になっているかどうか。 有効な値: Yes、No、Unset
privacy_info.uses_transient _token	STRING	ウェブユーザーがアナリティクスでの データ保存を拒否し、デベロッパーが サーバーデータの一時的なトークンに基 づいて Cookie を使用しない測定を有効 にしているかどうか。 有効な値: Yes、No、Unset

# BigQuery の操作



#### BigQueryの操作(2)

GA4側で確認できるプロジェクトIDは、BigQueryの下記の位置で確認できる。



#### BigQueryの操作(3)

プロジェクトIDをクリックすると、 「analytics\_<property\_id>」という 名前の1つのデータセットが表 示される。

プロパティIDは、GA4の下記の 位置で確認できる。

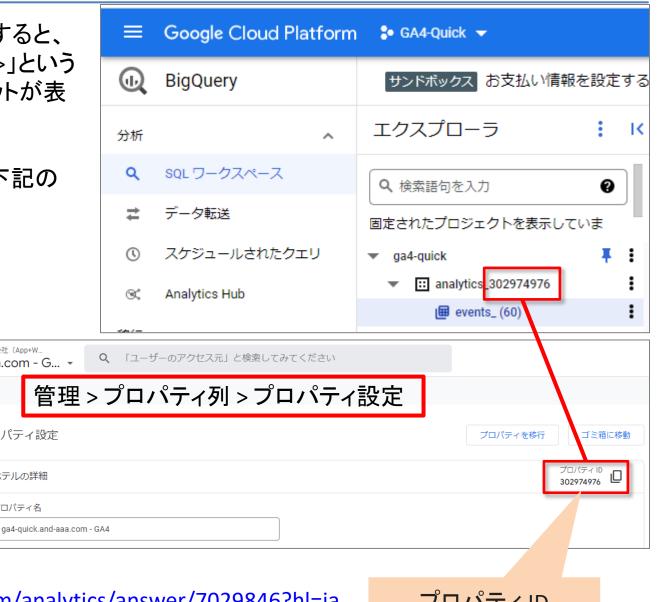
すべてのアカウント > and,a株式会社(App+W..

ga4-quick.and-aaa.com - G... •

プロパティ設定

ホテルの詳細

プロパティ名



公式ヘルプ

ılı.

**2** 

囯

アナリティクス

ユーザー

プロパティ 十 プロパティを作成

ga4-quick.and-aaa.com - GA4 (302974...

♪
プロパティのアクセス管理

② 設定アシスタント

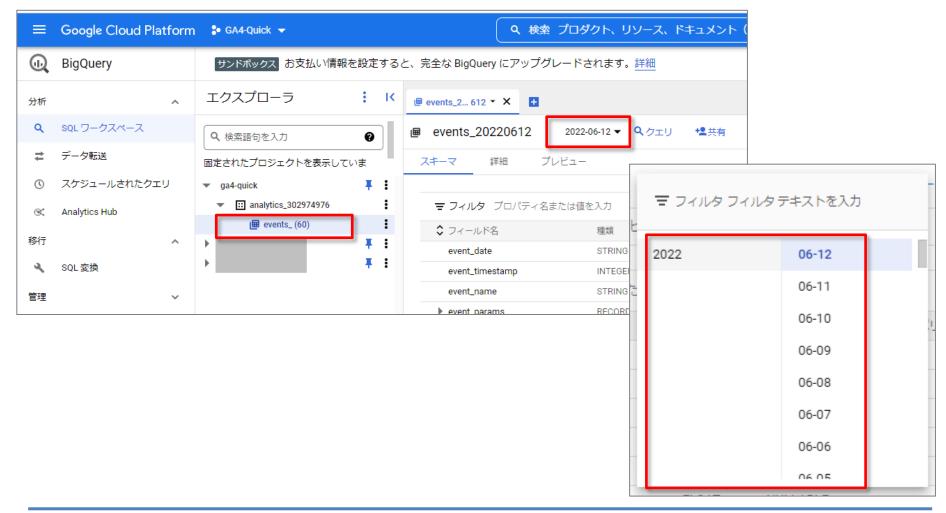
□ プロパティ設定

https://support.google.com/analytics/answer/7029846?hl=ja

プロパティID

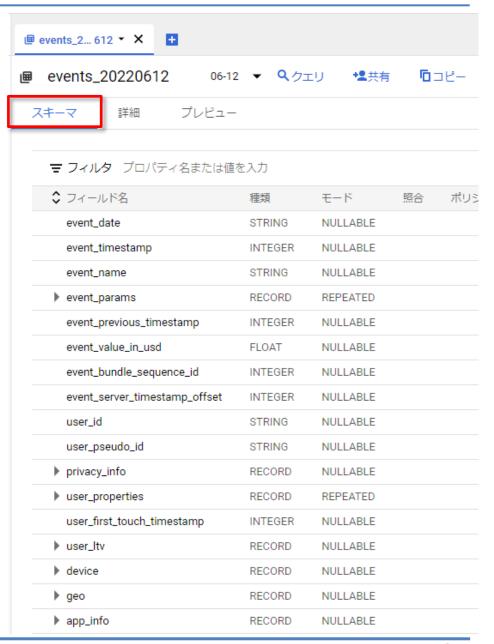
#### BigQueryの操作(4)

「analytics\_<property\_id>」をクリックし、「events\_」をクリックすると、最後にインポートされた1日分のデータが表示される。YYYY-MM-DDのプルダウンをクリックすると、日毎のデータを選択することができる。(サンドボックス利用中は、60日より前のデータは削除される。)



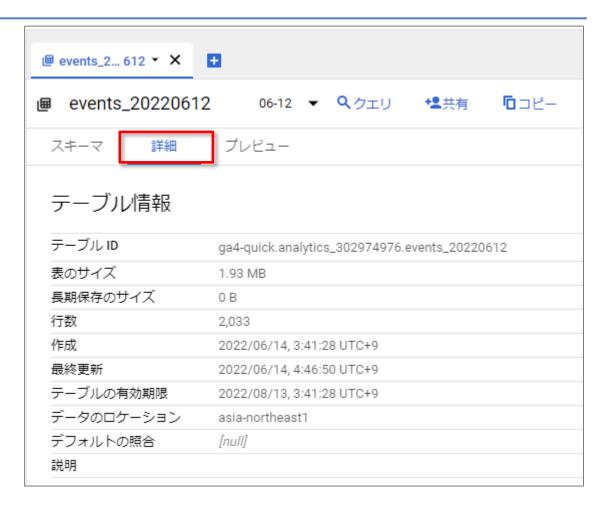
#### BigQueryの操作(5)

「スキーマ」を表示するタブ。



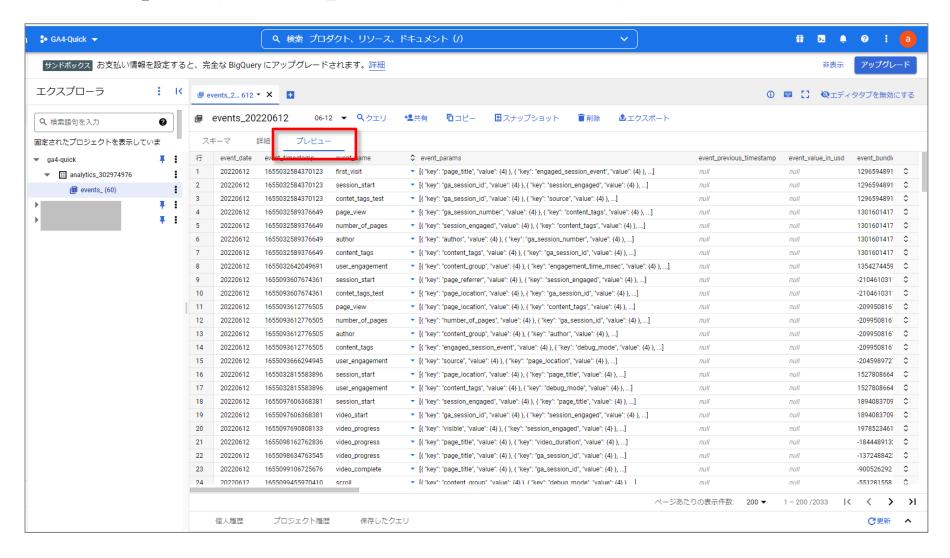
### BigQueryの操作(6)

「詳細」タブで、「テーブル情報」が表示される。



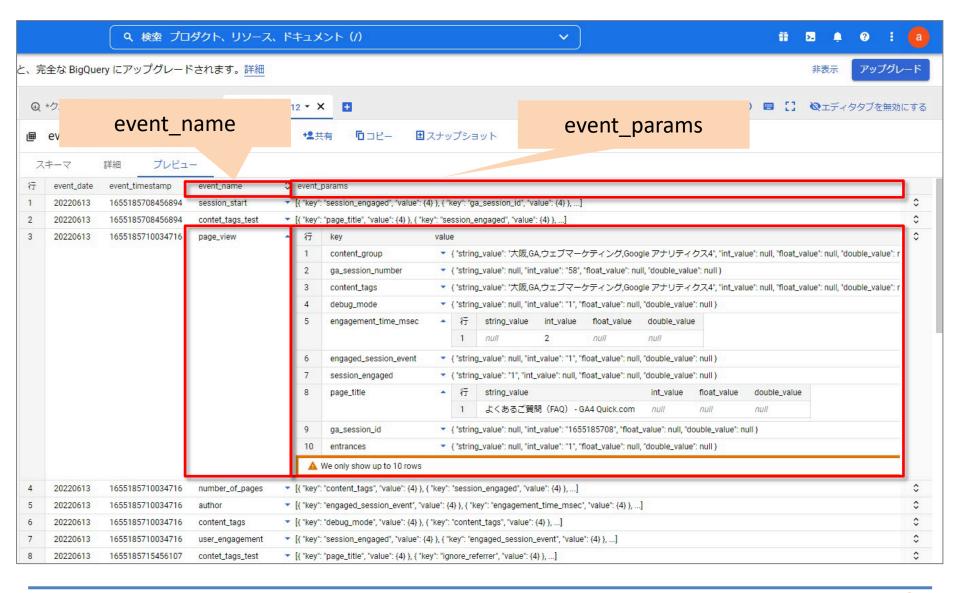
#### BigQueryの操作(7)

#### 「プレビュー」タブで、テーブルをプレビューすることができる。



#### BigQueryの操作(8)

「プレビュー」では、イベントとパラメータを見ることができる。



#### BigQueryの操作(9)

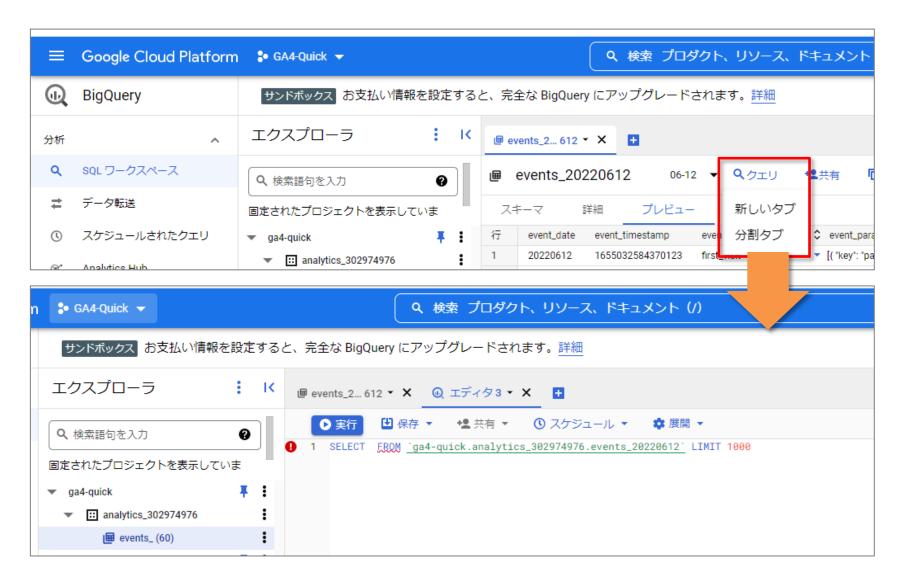
#### 「プレビュー」では、イベントとパラメータを見ることができる。(前ページの拡大)



# クエリ

#### クエリ

#### 「クエリ」でクエリ実行画面を開くことができる。



### クエリの操作(1)

実際に右の結果が得られるクエリを 実行してみます。

イベント名別のイベントの実行回数の 一覧です。

5	クエリ結果					
ジョブ情報 <b>結果</b> JSON 実行の詳細						
行	event_name		event_count			
1	page_view		13202			
2	view_item		13007			
3	number_of_pages		11022			
4	author		11022			
5	user_engagement		9874			
6	session_start		8372			
7	content_tags		7321			
8	contet_tags_test		7224			
9	first_visit		3609			
10	video_progress		1627			
11	file_download		1578			
12	ga4_text_download		1005			
13	video_start		1003			
14	GA4_text_download		1000			
15	scroll		670			
16	click		264			
17	video_complete		252			
10	viow coarch reculte		152			

event\_name イベント名 event\_count イベント実行回数

#### SQL

ここからは、SQLを使って、データを取得する方法をご紹介します。
SQLとは、リレーショナルデータベース(複数の表の形式で、データを管理するデータベースシステム)を操作するための言語です。

SQLが何の略かは諸説ありますが、たとえば、 Structured(構造化された)、Query(問い合わせ用の)、Language(言語) という説があります。

これからSQLを習得したいという方の入門書としては、下記の本がおすすめです。



#### 集中演習 SQL入門

Google BigQueryではじめるビジネスデータ分析 木田和廣 (著) インプレス (2021/2/19)

#### クエリの操作(2)

実際に下記のクエリを実行することで、 先ほど見た実行結果が得られます。 1行ずつ解説していきます。



- 1 SELECT event name,
- 2 COUNT(event name) AS event count
- FROM `ga4-quick.analytics\_302974976.events\_\*`
  - WHERE TABLE SUFFIX BETWEEN '20220301' AND '20220612'
- **GROUP BY 1**
- 6 ORDER BY 2 DESC

※SQLの書き方は1つではありません。あくまでも書き方の一つとしてご覧ください。

12	ya4_text_uowilloau	1005		
13	video_start	1003		
14	GA4_text_download	1000		
15	scroll	670		
16	click	264		
17	video_complete	252		
10	viow coarch reculte	150		

event\_name

event\_count



# **SELECT**

データを取得するカラムを指定する。

# **FROM**

データを取得するテーブルを指定する。

テーブル名はここで確認する。

1 SELECT event\_name,

FROM `ga4-quick.analytics\_302974976.events\_\*`





Section 3 GA4-Quick ▼

テーブル名の日付部分をワイルドカードにする。

#### クエリの操作(4)

# COUNT

[event\_name]フィールドを基準にグループ化して、それぞれのレコード数を [event\_count]として取得する。

3 COUNT(event\_name) AS event\_count

#### クエリの操作(5)

## WHERE

条件を指定して、合致するレコードだけを取得する。

# TABLE\_SUFFIX BETWEEN 'YYYYMMDD' AND 'YYYYMMDD'

日付別に分割されたテーブルをまとめて参照する。

4 WHERE \_TABLE\_SUFFIX BETWEEN '20220301' AND '20220612'

#### クエリの操作(6)

# **GROUP BY**

フィールドを指定して、グループ化(例:同じイベント名を1行にまとめて集計)する。 GROUP BY は列番号を指定してグループ化することができる。 [event\_name] [event\_count]というフィールド名が並んでいる場合、「1」は [event\_name] のことである。

5 GROUP BY 1

#### クエリの操作(7)

# ORDER BY

ORDER BYに続けて、並べ替えの基準とするフィールド名を並べ替える。

ORDER BYは列番号を指定して並べ替えすることができる。

[event\_name] [event\_count]というフィールド名が並んでいる場合、「2」は[event\_count] のことである。

ORDER BY で並べ替えの基準とするフィールド名(列番号)を指定した後、ASC(アスク)で昇順の指定、DESC(デスク)で降順の指定ができる。ASCは省略できるので、何もつけない場合は、昇順となる。

6 ORDER BY 2 DESC

### クエリの操作(8)

ここまでで見た、クエリの実行結果は下記のようになります。

イベント名別のイベントの実行回数の一覧です。

ク	エリ結果			
ジ:	ヨブ情報 結果	J:	SON 実行の詳細	
行	event_name		event_count	
1	page_view		13202	
2	view_item		13007	
3	number_of_pages		11022	
4	author		11022	
5	user_engagement		9874	
6	session_start		8372	
7	content_tags		7321	
8	contet_tags_test		7224	
9	first_visit		3609	
10	video_progress		1627	
11	file_download		1578	
12	ga4_text_download		1005	
13	video_start		1003	
14	GA4_text_download		1000	
15	scroll		670	
16	click		264	
17	video_complete		252	
10	vious coarch roculte		150	

event\_name

event\_count

SQLの例 page\_titleとPV数のデータを作成

#### page\_titleとPV数のデータを作成(1)

#### 「page\_title」はRECORD型の「event\_params」の中にあります。

[event\_params]は[key]と[value]に別れています。[value]は更に4つに分かれています。(次ページに整理した図があります。)

- [string\_value] = 文字列を格納する。「page\_title」のvalueはここに入ります。
- [int value] = 整数を格納する。
- [float\_value]=浮動小数点型のデータを格納する。
- [double\_value]=有効桁数の多い小数を格納する。



and,a 2022年 10

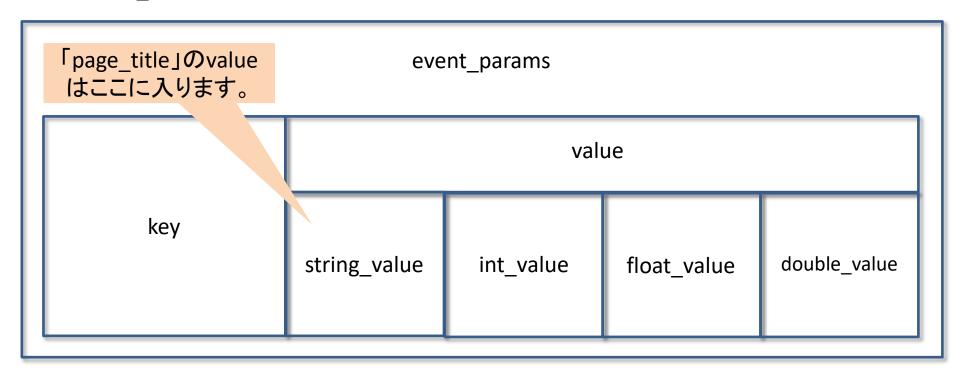
event params

#### page\_titleとPV数のデータを作成(2)

前ページの内容を再掲載して、整理すると下記のようになります。「page\_title」はRECORD型の「event\_params」の中にあります。

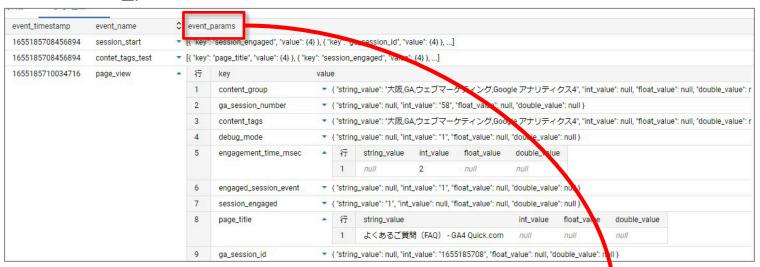
[event\_params]は[key]と[value]に別れています。[value]は更に4つに分かれています。

- [string\_value] = 文字列を格納する。「page\_title」のvalueはここに入ります。
- [int\_value]=整数を格納する。
- [float\_value]=浮動小数点型のデータを格納する。
- [double\_value]=有効桁数の多い小数を格納する。



#### page\_titleとPV数のデータを作成(3)

RECORD型の「event\_param」からデータを取り出す時は、UNNESTを使います。

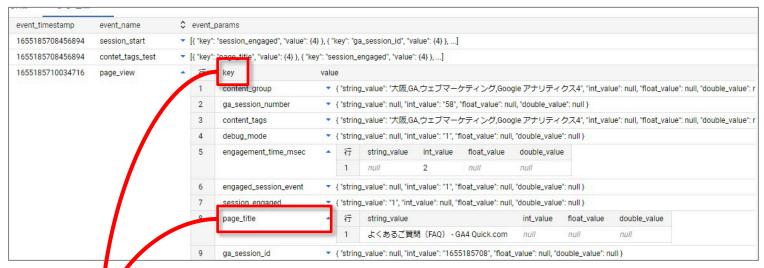


- 1 SELECT
- 2 (SELECT value.string\_value FROM UNNEST(event\_params) WHER E key = 'page title') AS page title,
- 3 COUNT(1) AS pageviews
- 4 FROM `ga4-quick.analytics\_302974976.events\_\*`
- 5 WHERE \_TABLE\_SUFFIX BETWEEN '20220415' AND '20220612'
- 6 AND event\_name = 'page\_view'
- 7 GROUP BY 1
- 6 ORDER BY 2 DESC

※SQLの書き方は1つではありません。あくまでも書き方の一つとしてご覧ください。

#### page\_titleとPV数のデータを作成(4)

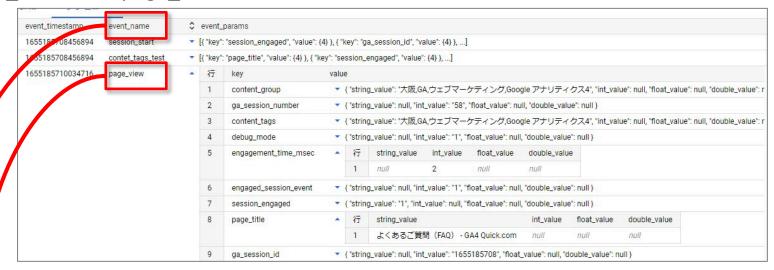
「key」が「page\_title」のデータを取得します。



- 1 SELECT
- 2 (SELECT value.string\_value FROM UNNEST(event\_params) WHER E key = 'page\_title') AS page\_title,
- 3 COUNT(1) AS pageviews
- 4 FROM `ga4-quick.analytics\_302974976.events\_\*`
- 5 WHERE \_TABLE\_SUFFIX BETWEEN '20220415' AND '20220612'
- 6 AND event\_name = 'page\_view'
- 7 GROUP BY 1
- 6 ORDER BY 2 DESC

#### page\_titleとPV数のデータを作成(5)

「event\_name」が「page\_view」に合致するデータだけを取得する。



SELECT (SELECT)

(SELECT value.string\_value FROM UNNEST(event\_params) WHER

key = 'page\_title') AS page\_title,

**QOUNT(1)** AS pageviews

ROM `ga4-quick.analytics\_302974976.events\_\*`

WERE \_TABLE\_SUFFIX BETWEEN '20220415' AND '20220612'

event\_name = 'page\_view'

**GROUP BY 1** 

ORDER BY 2 DESC

and,a 2022年 10<sup>1</sup>

### page\_titleとPV数のデータを作成(6)

今回はクエリ結果とGA4のレポートの数値が一致しています。(何らかの理由で、若干の差が出る可能性もあると思われます。)※サンドボックスは60日より前のデータが自動で削除されているので、GA4のレポートとのデータ比較の際は注意が必要です。



#### BigQuery クエリ結果

GA4 レポート画面 ライフサイクル > エンゲージメント > ページとスクリーン



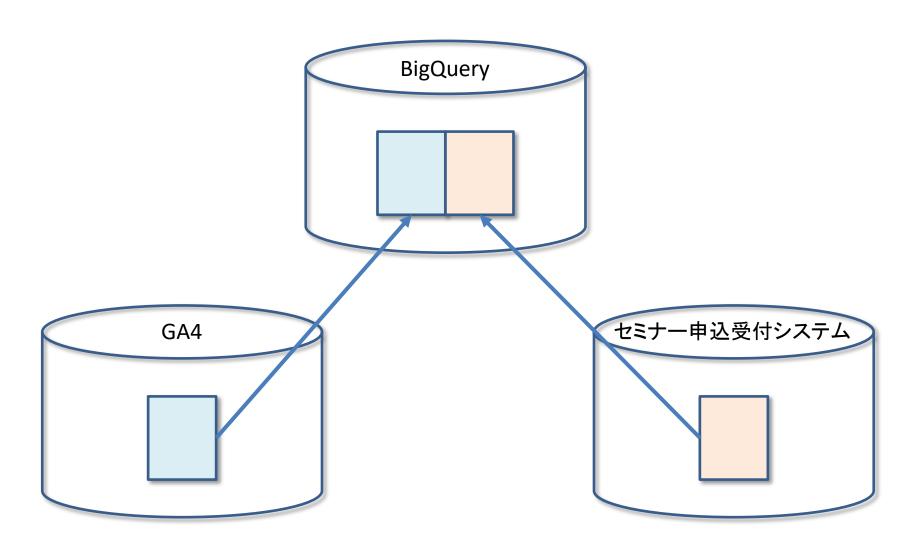
↓表示回数

12,860 全体の 100%

GA4のデータと外部のデータを BigQuery内で結合する

### GA4のデータと外部のデータをBigQuery内で結合する(1)

ここでは、<mark>GA4のデータ</mark>と、<mark>セミナー申込受付システムのデータ</mark>をBigQuery内で<mark>結合</mark>する 例をご説明します。



#### GA4のデータと外部のデータをBigQuery内で結合する(2)

外部のデータを、GA4からエクスポートしたBigQueryのデータに繋ぎます。 今回、例として繋ぎたいのは、<mark>セミナーの参加者データ</mark>です。 GA4が持っている<mark>セミナー別の案内ページのPV数</mark>のデータと繋ぎます。 見出し行は、半角英数文字にします。アップロードの際の文字コードはUTF-8です。

#### セミナーの参加者データ

url	title	seminar_participants
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/207	GA4 新規導入の方法 / 最初にしておきたい設定	69
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/208	UA(ユニバーサルアナリティクス)とGA4の計測方法の	81
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/215	イベントの設定・DebugView	58
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/227	コンバージョン設定	61
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/256	ユーザープロパティ設定	53
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/259	セグメント設定	50
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/262	e コマース設定	48
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/264	レポート画面の見方	63
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/266	GA4 探索	54
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/269	ライブラリとコレクション	56
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/271	広告レポート	61
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/273	YouTube連携	35
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/275	GA4とGoogle広告の連携・広告用機械学習	51
//ga4-quick.and-aaa.com/archives/278	データインポート	39
//ga4-quick.and-aaa, //archives/280	BigQueryへのデータエクスポート	36
	//ga4-quick.and-aaa.com/archives/207 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/208 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/215 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/227 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/256 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/262 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/264 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/264 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/269 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/271 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/273 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/275 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/278 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/278 //ga4-quick.and-aaa.com/archives/278	(/ga4-quick.and-aaa.com/archives/207 GA4 新規導入の方法 / 最初にしておきたい設定 (/ga4-quick.and-aaa.com/archives/208 UA(ユニバーサルアナリティクス)とGA4の計測方法の (/ga4-quick.and-aaa.com/archives/215 イベントの設定・DebugView (/ga4-quick.and-aaa.com/archives/227 コンバージョン設定 (/ga4-quick.and-aaa.com/archives/256 ユーザープロパティ設定 (/ga4-quick.and-aaa.com/archives/259 セグメント設定 (/ga4-quick.and-aaa.com/archives/262 ロポート画面の見方 (/ga4-quick.and-aaa.com/archives/264 レポート画面の見方 (/ga4-quick.and-aaa.com/archives/269 ライブラリとコレクション (/ga4-quick.and-aaa.com/archives/271 広告レポート (/ga4-quick.and-aaa.com/archives/273 YouTube連携 (/ga4-quick.and-aaa.com/archives/275 GA4とGoogle広告の連携・広告用機械学習 (/ga4-quick.and-aaa.com/archives/278 データインポート

セミナーの案内ページのURL

セミナーのタイトル

セミナーの参加者数

#### GA4のデータと外部のデータをBigQuery内で結合する(3)

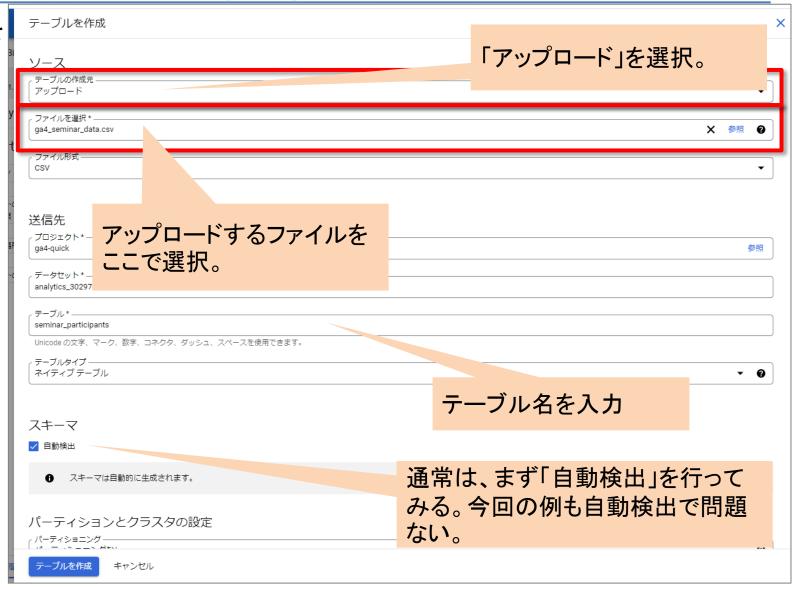
外部データ(この場合はCSVファイル)をインポートする「データセット」を選択し、「テーブルを作成」をクリック。



データセットを選択

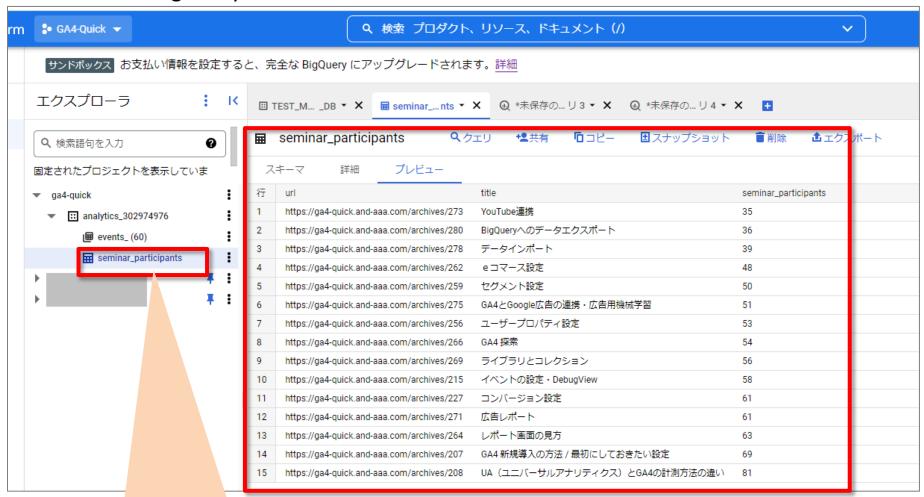
### GA4のデータと外部のデータをBigQuery内で結合する(4)

CSVファイルを BigQueryに アップロード する。



#### GA4のデータと外部のデータをBigQuery内で結合する(5)

CSVファイルがBigQueryにアップロードされた。



アップロード時に入力したテーブル名。

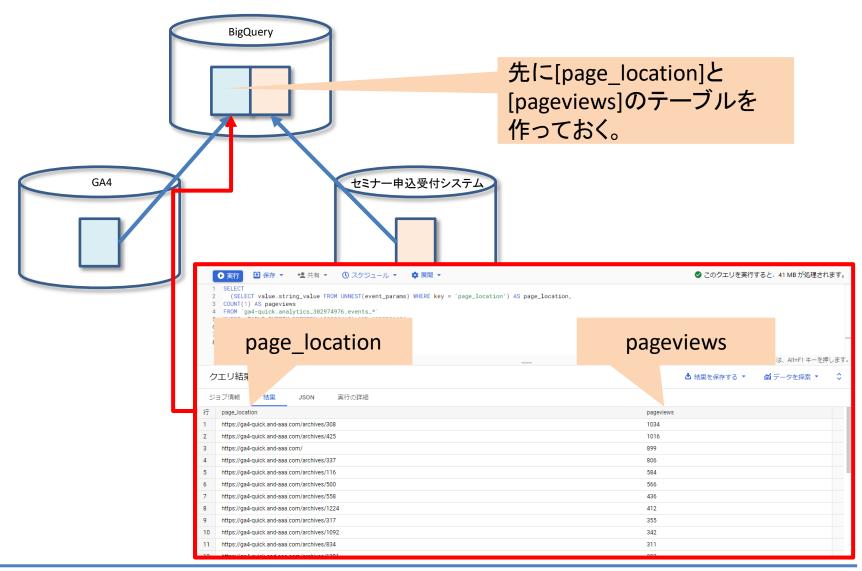
#### GA4のデータと外部のデータをBigQuery内で結合する(6)

RECORD型の「event\_param」からデータを取り出す時は、UNNESTを使います。 赤線で囲んだ部分は既に見た「page\_titleとPV数のデータを作成」とそっくりですが、WITH で「仮想テーブル」を作っている点が異なります。※SQLの書き方は1つではありません。 あくまでも書き方の一つとしてご覧ください。

```
WITH master AS (
   SELECT
    (SELECT value.string value FROM UNNEST(event_params) WHERE key = '
   page_location') AS page location,
   COUNT(1) AS pageviews
   FROM `ga4-quick.analytics 302974976.events *`
   WHERE TABLE SUFFIX BETWEEN '20220415' AND '20220612'
8
    AND event name = 'page view'
   GROUP BY 1
10
   SELECT page_location, title, pageviews, seminar_participants
   FROM master
12
   RIGHT OUTER JOIN 'ga4-quick.analytics 302974976.seminar participants'
13
   on page location = url
   ORDER BY 3 DESC
```

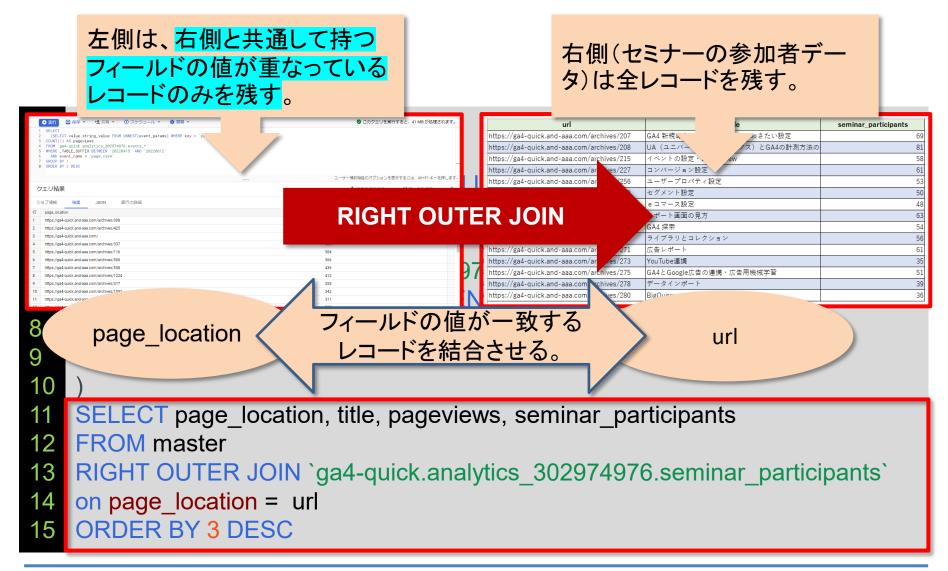
### GA4のデータと外部のデータをBigQuery内で結合する(7)

「WITHで仮想テーブルを作る」とは、ここでは、先に[page\_location](=URL)と[pageviews] のテーブルを作っておくことを指します。



#### GA4のデータと外部のデータをBigQuery内で結合する(8)

後半では、「RIGHT OUTER JOIN」を使って、仮想テーブルと、CSVでインポートしたテーブルを連結しています。page\_location = url によって結合させています。

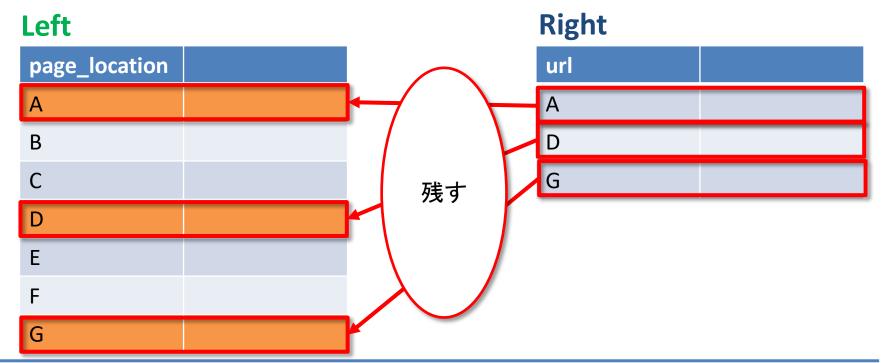


#### GA4のデータと外部のデータをBigQuery内で結合する(9)

#### RIGHT OUTER JOIN の解説

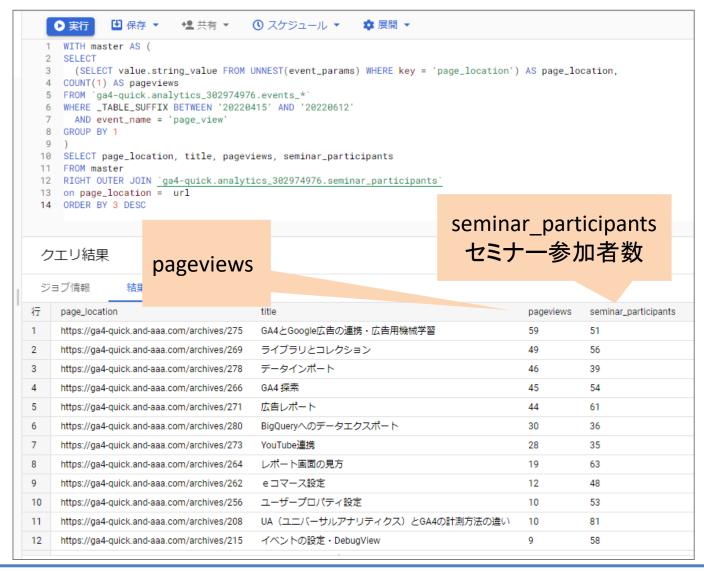
- 11 SELECT page\_location, title, pageviews, seminar\_participants
- 12 FROM master
  - 13 RIGHT OUTER JOIN `ga4-quick.analytics\_302974976.seminar\_participants`
- 14 on page location = url

RIGHT OUTER JOIN は、FROMで指定するテーブルを左側、RIGHT OUTER JOINで指定するテーブルを右側として、右側は全レコード、左側は右側と共通して持つフィールドの値が重なっているレコードのみを残します。



#### GA4のデータと外部のデータをBigQuery内で結合する(10)

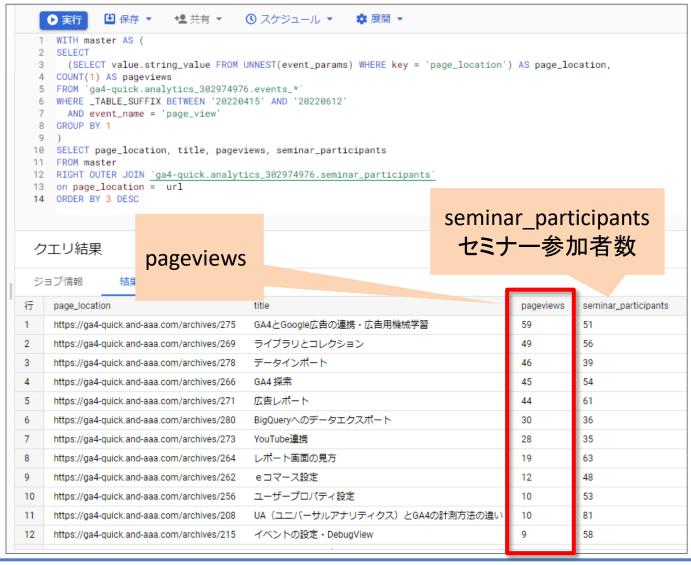
実行結果はこちらです。GA4が持っていたページビュー数と、外部にあったセミナー参加者数のデータが、page\_location=URLをキーにして結合されています。



#### GA4のデータと外部のデータをBigQuery内で結合する(11)

下記の例で参加者数よりもpageviewsの数値が小さくなっているのは、サンドボックスを使用しているため、60日よりも前のデータが削除されており、集計対象とならなかったた

めです。



テキストはここまでとなります。